

令和6年度 掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター

診療科別目標発表会

令和6年7月25日（木）17:30～19:00 大会議室

<診療科発表順>

- | | | | |
|---------|---------|--------------|----------|
| ① 腎臓内科 | ⑦ 循環器内科 | ⑬ 皮膚科・皮膚腫瘍科 | ⑲ 歯科口腔外科 |
| ② 呼吸器内科 | ⑧ 外科 | ⑭ 眼科 | ⑳ 総合内科 |
| ③ 小児科 | ⑨ 整形外科 | ⑮ 耳鼻いんこう科 | ㉑ 救急科 |
| ④ 病理診断科 | ⑩ 脳神経外科 | ⑯ 腫瘍放射線科 | ㉒ 企業長兼院長 |
| ⑤ 脳神経内科 | ⑪ 産婦人科 | ⑰ 麻酔科 | |
| ⑥ 消化器内科 | ⑫ 泌尿器科 | ⑱ リハビリテーション科 | |





中期目標(2019～2024)

2023年4月1日

掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター

企業長兼院長 宮地 正彦

中東遠総合医療センターが、静岡県の基幹病院としてすべての人に質の高い医療を提供し、愛され信頼される病院になるため、次のとおり中期目標を定め、全職員が一丸となって達成に向け努力することを決意する。

1 地域医療への貢献

- 1) 全科の医師を充足させる
- 2) 救急医療をオール中東遠で支える
- 3) 地域がん診療連携拠点病院の指定を目指す
- 4) 脳血管疾患及び循環器疾患の拠点としてさらなる体制強化を図る
- 5) DPC特定病院群にジャンプアップする
- 6) 地域医療連携を強化し地域包括ケアシステムの構築に貢献する
- 7) スポーツ医療や各種団体との交流を通じて地域に貢献する
- 8) 経常収支の黒字化を達成し持続可能な病院運営を実現する

2 誇りと働きがいを持てる病院の創造

- 1) 市民に愛され信頼される病院になる
・患者満足度を継続的に向上させる
- 2) 職員が誇りと働きがいを実感できる環境を創る
・職員意識（意欲と満足度）を継続的に向上させる
- 3) 県内屈指の急性期病院として中東遠ブランドを醸成する
- 4) 時間外勤務を月60時間以内にする
- 5) 院内保育園を拡充し子育てとの両立が図れる環境を整備する

3 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

- 1) 優秀な初期研修医のフルマッチを継続的に達成する
- 2) 専攻医（3～5年目の医師）を20名以上にする
- 3) すべての職種において教育プログラムを作成・実践する
- 4) 外科領域の専門医研修における基幹施設になる
・心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、形成外科の設置
- 5) 救急科領域の専門医研修における基幹施設になる

最良の医療提供と健全経営を実現し、誰からも愛され信頼される病院へ



2024年度 運営目標

2024年4月1日

掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター

企業長兼院長 宮地 正彦

1 地域医療への貢献

- 1) 医師充足への一定の道筋をつける
（糖尿病・内分泌内科、血液・腫瘍内科、消化器内科、放射線科、心臓血管外科）
- 2) がん診療連携拠点病院の指定要件を堅持すると共に更なるがん診療機能の向上を図る
・がん登録件数を1,300件／年以上とする
・悪性腫瘍の手術件数を750件／年以上とする
・がんに係わる薬物療法の患者数を1,300件／年以上とする
・放射線治療の患者数を350件／年以上とする
・緩和ケアチーム新規介入件数を200件／年以上とする
- 3) がんゲノム医療連携病院の指定を受ける
- 4) 1日当たりの入院患者を420人以上とする
- 5) 1月当たりのECU稼働率を90%以上（14床稼働）とする
- 6) 手術件数（手術室内）を6,600件／年（550件／月）以上とする
全身麻酔件数を2,450件／年以上とする
緊急全身麻酔件数を350件／年以上とする
- 7) 手術件数（血管造影室内）を1,200件／年（100件／月）以上とする
- 8) 紹介件数を25,000件／年（2,084件／月）以上とする
- 9) 人間ドック件数を17,000件／年（1,417件／月）以上とする
- 10) DPC特定病院群の基準をクリアする
- 11) 将来に向けた病院整備計画を確実に推進する
- 12) 経常収支を1億円の黒字にする

2 誇りと働きがいを持てる病院の創造

- 1) ハラスメントを撲滅し働きやすい職場環境をつくる
- 2) 入院の患者満足度（当院を親しい人にすすめるか？）を4.50以上とする
- 3) 外来の患者満足度（当院を親しい人にすすめるか？）を4.10以上とする
- 4) 外来患者の85%以上は診察待ち時間を1時間以内とする
- 5) 外来患者の75%以上は会計待ち時間を10分以内とする
- 6) 職員意識調査における活性型職員を増加させる
・意欲度を68.5以上、満足度を66.5以上とする
- 7) すべての職員の時間外勤務を月60時間以下とする
- 8) すべての職員が有給休暇（年休、リフレッシュ）を14日以上取得する
- 9) すべての職員にポータルサイトを普及させる

3 日本トップクラスの臨床研修病院を目指す

- 1) 当院で研修する専攻医を7人以上確保する
- 2) 優秀な初期研修医のフルマッチを達成する
- 3) 初期研修及び専門研修における魅力的な研修プログラムを再構築する
- 4) 専門医制度基幹施設となる領域数を4に増やす
- 5) 全職種の資格取得計画を作成し有資格者を増加させる
・Sランク1人、Aランク6人、Bランク8人
- 6) 看護師特定行為研修指定研修機関の指定を受ける
- 7) 病理解剖を上半期6件、下半期6件以上実施する

令和6年度 診療科目目標発表



腎臓内科 Nephrology

1

腎臓内科

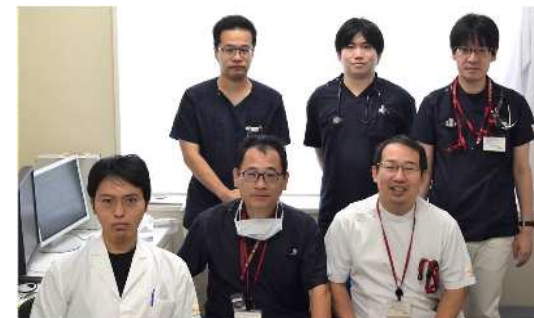
令和6年度 目標

1 診療目標

項 目	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標
1日あたり入院患者数（人）	22.1	18.8	19.8	22.0	28.0	25
新入院患者数（人／月）	45	40	39	38	53	60
手術件数（人／月）（カテ含む）	10	12	16	18	6	15
外来初診患者数（人／月）	17	20	16	26	22	30
紹介患者数（人／月）	43	31	37	43	56	60
逆紹介患者数（人／月）	45	32	32	39	49	50

3

腎臓内科



	氏 名	役 職
1	赤堀 利行	副院長兼腎臓内科診療部長兼感染対策管理室長
2	稲垣 浩司	部長兼血液浄化センター長兼臨床研修センター副センター長
3	辻 将志	医長
4	古澤 眞	医長
5	鈴木 彰	医長

2

腎臓内科

令和6年度 目標

2 医療の質向上 腎臓系疾患の早期発見・早期治療とCKD患者への教育入院の推進

	項 目	目 標
1	CKD+DKD患者に対する腎臓病教育・教育入院の実施	対象患者全員へ積極的推奨を行う
2	地域内におけるチーム医療の強化	地域医療機関との研修会等の実施

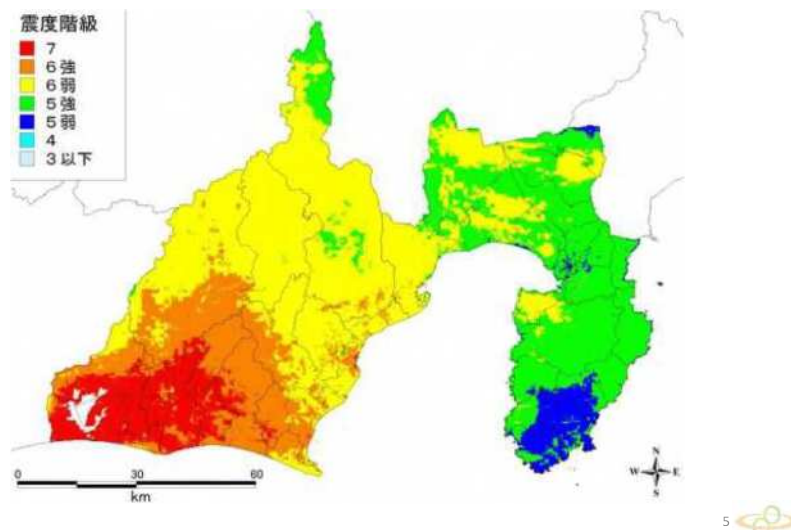
3 専攻医の確保・教育研修 大学との連携による教育体制強化

	項 目	目 標
1	大学との連携	大学と連携し教育レベルの向上を図る
2	教育体制の強化と研修医の確保	教育の充実を図り研修医確保につなげる

4

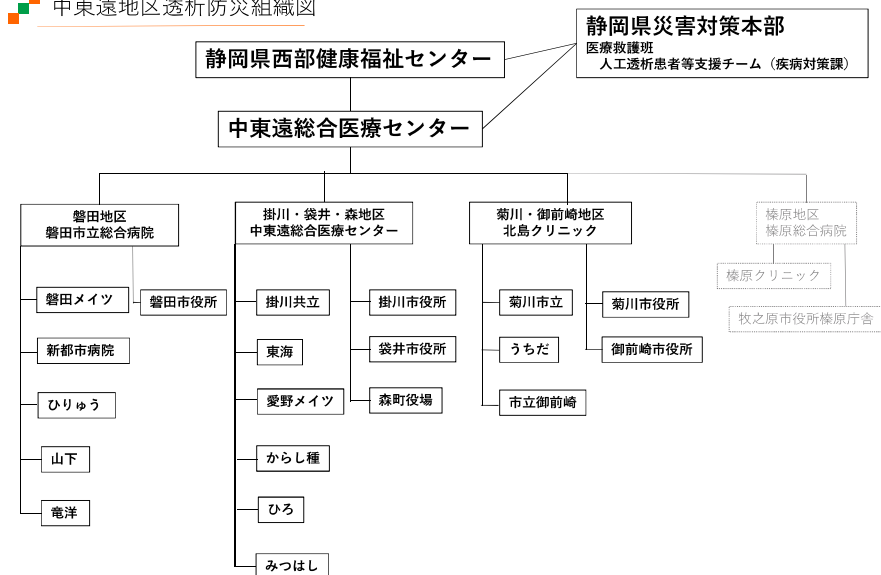
静岡県総合防災訓練

●本部運営訓練（図上訓練）2024.8.22
○実動訓練2024.9.1



5

中東遠地区透析防災組織図



6

腎臓内科

決意

診療レベルの向上と
地域連携の強化により
信頼される腎臓内科として
地域医療に貢献します

7

令和6年度 診療科目目標発表

呼吸器内科 Respiratory Medicine

9

呼吸器内科



	氏名	役職
1	後藤 洋輔	部長（診療科長）兼内視鏡センター副センター長
2	野田 純也	部長
3	森川 昇	部長
4	三上 智	部長
5	松浦 彰彦	医員

10

呼吸器内科

令和6年度 目標

1 診療目標

項目	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標
1日あたり入院患者数	45.2	41.7	44.4	34.5	32.9	40
新入院患者数（月）	92	91	95	70	69	80
外来初診患者数（月）	46	37	40	39	36	40
紹介患者数（月）	105	78	91	84	87	90
逆紹介患者数（月）	66	50	61	41	51	55

11

呼吸器内科

令和6年度 目標

2 医療の質向上

	項目	目標
1	肺がん診療の質の向上	・呼吸器外科、放射線科と連携し、中東遠地域で完結できる診療体制の構築 ・エビデンスに基づいた個別化医療の提供
2	多職種連携の強化	・医師、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリ、MSWなどがカンファレンスで意見交換を行い、一人ひとりの患者さんによりよいケアを提供

12

3 働き方改革

	項目	目標
1	当番体制の強化	オン、オフの切り替えができるよう、 夜間・休日の当番対応を強化
2	休暇取得の促進	夏休み、有給休暇を取りやすい環境づくり

4 専攻医の確保

	項目	目標
1	研修医教育の強化	チームの一員として熱心な教育 学会発表の指導
2	学会・論文でのアウトプット	積極的な学術活動を通して、 アクティビティーの高い魅力的な科へ

決 意

- ✓ あらゆる呼吸器系疾患に対する
診療の質の向上により地域医療に貢献します。
- ✓ 患者様が満足するだけでなく、医療者が楽しく
やりがいのある仕事ができるように努力します。

令和6年度 診療科目目標発表



小児科 Pediatrics

17



小児科



	氏名	役職
1	岩島 覚	副院長兼小児科（統括）診療部長兼臨床研究管理室長
2	矢田 宗一郎	診療部長
3	関 圭吾	診療部長
4	早野 聡	診療部長兼臨床研修センター部長兼アレルギー疾患研究センター副センター長
5	早川 晶也	医長
6	伊藤 裕	医長
7	横道 萌	医長
8	古澤 由梨	医長
9	本橋 康弘	医長

18



小児科

令和6年度 目標

1 診療目標

項目	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標
1日あたり入院患者数（人）	14.0	13.0	13.1	12.4	11.1	14.0
新入院患者数（人／月）	85	75	75	70	73	85
外来初診患者数（人／月）	243	146	131	118	124	243
紹介患者数（人／月）	155	104	132	120	133	155
逆紹介患者数（人／月）	24	20	27	40	49	24

19



小児科

令和6年度 目標

2 医療の質向上

- ・あらゆる小児疾患に対する診療体制の充実
- ・専門施設との連携強化

	項目	目標
1	小児入院医療体制の強化	体制強化による小児入院医療管理料3の取得 養育支援体制加算の取得
2	行政や施設との連携強化	地域医療的ケア児支援への体制協力 小児生活習慣病予防検診への貢献
3	小児発達支援	臨床心理師による週2～3回の外来枠の設置

20

3 働き方改革

	項目	目標
1	ワークライフバランス	子育てと仕事の両立を推進する
2	労働時間	シフト性確立

4 専攻医の確保・教育研修

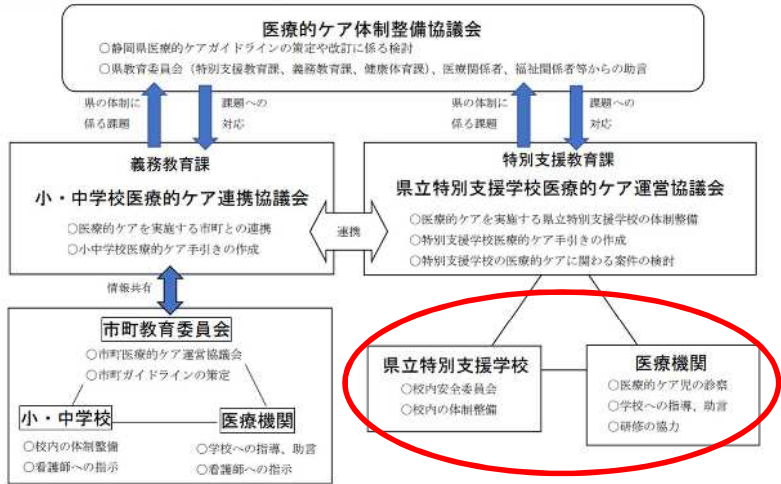
- ・研修教育の強化と研修医の確保
- ・当院出身小児科専門医の育成

	項目	目標
1	初期研修医の教育強化	月10例程度の受け持ち
2	後期研修医の教育強化	学会での症例報告、論文作成、専門医育成
3	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

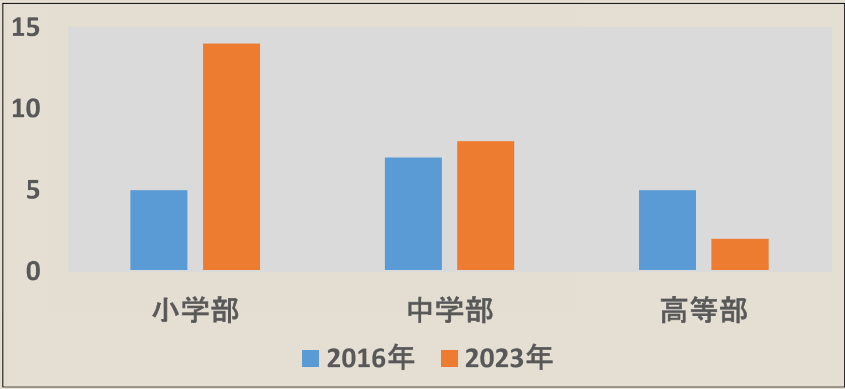
医療的ケア児支援法が施行されました

令和3年9月18日に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行されました。
 この法律では、医療的ケア児及びその家族に対する支援は、医療、保健、福祉、教育、労働等に関する業務を行う関係機関及び民間団体相互の緊密な連携の下に、切れ目なく行うことを基本理念として、国、地方公共団体、学校設置者等の責務を規定しています。
 県では、この法律に基づき、医療的ケア児とその御家族への支援を進めていきます。

【図】静岡県の学校における医療的ケア体制



中東遠地区特別養護学校調査による医療ケア児の推移



在宅人工呼吸器の実際の様子

- ・効率的な動線の確保
- ・電源と配線の確保(電気容量やコンセント数)
- ・適切な照明と室温調整
- ・室内の環境衛生の維持



『医療的ケア研修テキスト「改訂増補版」』クリエイツかもがわ発行、2023 年より引用

医療安全について

ChatGPT 4o

1990年代頃から医療事故が問題となり、その後の医療安全体制が構築されるに至る経過について説明してください。

1990年代の医療事故の背景

1990年代に入ると、医療事故が頻発し、その深刻さが社会的に認識されるようになりました。特に大規模な医療事故が報道されることで、医療の安全性に対する不安が広がりました。以下にいくつかの主な要因を挙げます。

1. 医療技術の高度化:

- ・新しい医療技術や治療法が導入される一方で、その運用ミスや未熟な技術者による事故が発生。

2. 患者の高齢化と慢性疾患の増加:

- ・医療の対象となる患者の病態が複雑化し、リスクが高まる。

3. 医療現場の過重労働:

- ・医療従事者の労働環境が厳しく、過労によるヒューマンエラーが発生。

1. 法整備とガイドラインの策定

・ 1999年「医療法」改正:

- ・ 病院の管理体制の強化を図り、医療事故の報告義務を明確化。
- ・ 各病院に医療安全管理者の設置を義務付け。

・ 2001年「医療事故調査制度」:

- ・ 厚生労働省により設置され、医療事故の原因を究明し再発防止策を提言。
- ・ 全国的な医療事故のデータベースを構築し、情報共有を推進。

2. 医療機関の内部体制の強化

・ インシデントレポート制度の導入:

- ・ インシデント（事故未遂）を報告し、分析することで事故の予防を図る。
- ・ 医療従事者が安心して報告できる環境づくり。

・ 医療安全管理委員会の設置:

- ・ 各医療機関に医療安全管理委員会を設置し、定期的に医療事故の防止策を議論・実施。
- ・ リスクマネジメント教育の徹底。



決 意

充実した小児診療体制を
構築し、
世界へ情報を発信できる
小児科医を育成する



令和6年度 診療科目目標発表

病理診断科 Department of Pathology

33

病理診断科



	氏名	役職
1	鈴木 大介	部長（診療科長）
2	望月 駿佑	医員

34

病理診断科

令和6年度 目標

1 診療目標

項目	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標
細胞診（件／年）	8,239	7,506	7,964	8,150	8,302	8,500
組織診（件／年）	5,616	4,586	5,345	5,729	5,786	6,000
病理解剖（件／年）	17	12	11	12	10	15

35

病理診断科

令和6年度 目標

2 医療の質向上

病理診断件数の維持・増加
遺伝子解析技術の取得

	項目	目標
1	病理診断件数の維持・増加	細胞診 8,500件/年 組織診 6,000件/年
2	病理解剖件数・臨床病理検討会回数（CPC）の維持・増加	病理解剖15件/年 CPC 7回/年
3	遺伝子解析技術の取得	PCR・FISHについての知識向上 スペースや人員の確保

「Doctor's Doctor」として、日々患者さんの診療に努力する各科医師と連携を確実に行之、患者さんの満足に繋がる病理診断を心懸けます。

36

3 働き方改革 長期に持続可能な体制の構築

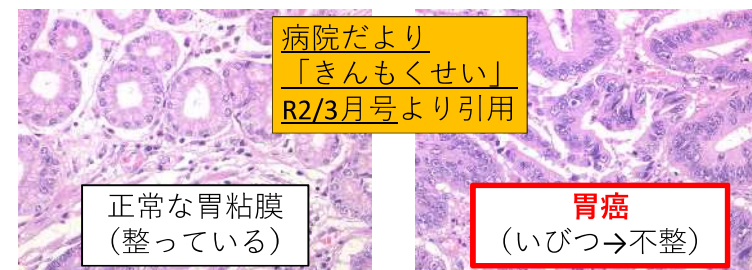
	項目	目標
1	十分な休暇の取得	有給休暇消化 2日以上/月
2	勤務時間内の労働効率向上	時間外労働 30時間以下/月

4 専攻医の確保・教育研修 まず病理の重要性について知ってもらう

	項目	目標
1	病理に理解ある医師の育成	病理診断科を研修する研修医数 3人/年
2	病理と臨床の関連性への理解向上	臨床病理検討会（CPC）7回/年

37

- ・病理診断科とは？→「病理診断」をする診療科
- ・「病理診断」とは？→細胞や組織を顕微鏡にて観察して病気の診断すること
- ・病理→病気の原因・過程に関する理論的根拠（デジタル大辞典）



38

がんパネル検査を当院でも施行できるようになる！

・がんパネル検査は新しい検査(きんもくせい R6 3月号参照)

→数百までのがん遺伝子を一度に検索

→新たな治療ターゲットがみつきやすい

シリーズ がんと共に生きる 住み慣れたこの場所で④
～注目度上昇中！がんゲノム医療について～

病理診断科 医師 鈴木 大介

←病院だより
「きんもくせい」
R6/3月号 p.2-3

●がんは遺伝子の異常から起こる！
がんゲノム医療とは？

●数百のがん遺伝子を一度に調べる？！
がん遺伝子パネル検査とは？

39

がんパネル検査を当院でも施行できるようになる！

・がんパネル検査の問題点

→現状では患者さんに結果が届くまで時間がかかる

→施行にはがんゲノム医療連携病院の認定が必要

シリーズ がんと共に生きる 住み慣れたこの場所で④
～注目度上昇中！がんゲノム医療について～

病理診断科 医師 鈴木 大介

←病院だより
「きんもくせい」
R6/3月号 p.2-3

●がんは遺伝子の異常から起こる！
がんゲノム医療とは？

●数百のがん遺伝子を一度に調べる？！
がん遺伝子パネル検査とは？

40

・病理診断科は直接患者さんの診療にあたる科ではありません。
→自ら患者さんを増やすということはできません。

・「Doctor's Doctor」として、各科の医師と協力して医療の質が向上するように努力していきます。
→適切な診療が、患者さんの安心に繋がれば患者さんの増加にも繋がると考えます。



41

決意

各科医師と協力して適切な病理診断を行うことでもたらされる診療の質向上が、患者さんの満足に繋がると考えます。
上記を念頭に日々努力を重ねていきたいと思いをします。

42

令和6年度 診療科目目標発表

脳神経内科 Neurology

45

脳神経内科



	氏 名	役 職
1	若井 正一	副院長兼脳神経内科診療部長 兼睡眠医療センター長 兼認知症疾患医療センター長 兼人間ドック・健診センター長
2	福野 貴仁	医長

46

脳神経内科

令和6年度 目標

1 診療目標

項目	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標
1日あたり入院患者数（人）	20.2	19.3	21.5	20.9	30.7	35
新入院患者数（人／月）	59	59	60	64	86	90
外来初診患者数（人／月）	48	46	43	46	49	50
紹介患者数（人／月）	80	77	76	79	95	100
逆紹介患者数（人／月）	62	69	68	77	87	90

47

脳神経内科

令和6年度 目標

2 医療の質向上 神経疾患の確実な受入と認知症への対応強化

	項 目	目 標
1	認知症疾患医療センターの体制強化	認知症疾患医療センター患者数 950人／年
2	認知症ケア加算1の堅持	スタッフ配置による診療の充実と加算の 算定

48

3 働き方改革

	項目	目標
1	脳梗塞の対応	日・当直医との診療連携の強化

4 専攻医の確保・教育研修 教育体制の強化と研修医の確保

	項目	目標
1	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化を図り研修医の確保につなげる
2	内科専攻医への教育を充実	教育プログラムの確実な実施により優秀な内科医を育成する

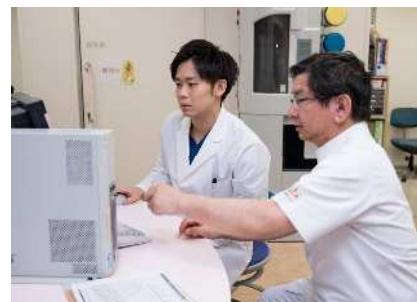
49

大学との共同研究

- ① 名古屋大学医学部附属病院 脳神経内科
「レビー小体型認知症の研究」
- ② 名古屋大学医学部附属病院 医学系研究科
「睡眠時の自律神経活動の研究」

51

脳神経内科としての専門性の発揮



中東遠ならびに志太榛原は脳神経内科の診療を行う総合病院が少ない地域です。

当院はCT、MRI、SPECT、脳波検査装置、終夜睡眠ポリグラフィ検査装置、PET-CTなど、脳神経内科の診療に必要な機器が揃っています。

最新機器と専門的なスキルにより専門性の高い診療を行ってまいります。

50

睡眠医療センターの充実



52



決 意

脳神経内科としての
専門性を発揮し
地域の医療水準向上を
図ります



令和6年度 診療科目目標発表

消化器内科 Gastroenterology

57

消化器内科



	氏名	役職
1	高柳 正弘	(統括) 診療部長
2	細野 功	診療部長 兼 内視鏡センター長
3	松葉 朋彦	部長
4	小木曾 拓也	医長
5	竹内 悠祐	医長

58

消化器内科

令和6年度 目標

1 診療目標

項目	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標
1日あたり入院患者数(人)	40.3	27.2	25.6	24.3	22.3	30
新入院患者数(人/月)	92	64	66	63	60	70
外来初診患者数(人/月)	91	47	75	81	92	100
紹介患者数(人/月)	149	83	112	124	130	140
逆紹介患者数(人/月)	125	80	73	77	81	100

59

消化器内科

令和6年度 目標

2 医療の質向上 連携強化による消化器系疾患への対応強化

	項目	目標
1	消化器病センターの体制強化	紹介患者の確実な受け入れ
2	ドック・検診の再検患者への対応強化	再検査の受入強化 600件/年
3	早期胃癌・大腸癌の内視鏡治療の推進	必要な患者全例への提案

60

3 働き方改革 グループ制の推進

	項目	目標
1	時間外の仕事の相互依頼	土日祝、時間外の当番での対応推進
2	書類仕事などの効率化	適切なひな形の作成・最小限の情報記入

4 専攻医の確保・教育研修 専攻医の獲得と診療体制の維持

	項目	目標
1	常勤医師の増員	常勤医師の増員
2	教育体制の強化と専攻医の確保	専攻医の確保

61

消化器内科常勤5名になりました。
非常勤の先生方とも連携し、外来・検査・
入院対応を行っています。

今後の当科のパワーアップにご期待ください。

63

診療科の特徴

消化器内科は、消化管および肝胆脾など諸臓器の多種・多様な疾患に対応して診療しています。

上部・下部消化管内視鏡検査を連日実施、内視鏡下膵胆管造影、超音波内視鏡を随時実施しています。また、早期胃癌・早期大腸癌の内視鏡治療も積極的に入院で実施しています。

救急対応に関しても、吐血や黄疸・肝機能障害、急性胆管炎、急性膵炎、大腸憩室炎などに対する緊急検査・処置などを含む急性期対応も随時行っています。

62

決意

消化器疾患への迅速
かつ適切な診療と
がんの早期発見・早期治療
に貢献します

64

令和6年度 診療科目目標発表

循環器内科 Cardiology

65

循環器内科

診療実績

項目	R1	R2	R3	R4	R5
1日あたり入院患者数（人）	51.8	45.1	44.8	50.2	48.9
入院心不全患者数（人/年）	392	415	419	355	383
緊急PCI（件/年）	144	160	112	118	144
待機的PCI（件/年）	313	282	284	247	235
カテーテルアブレーション（件/年）	162	179	194	150	116
ペースメーカー植え込み術（件/年）	57	52	54	77	78

67

循環器内科

	氏名	役職
1	森川 修司	副院長兼医務局長兼循環器内科（統括）診療部長兼心血管内治療センター長兼ICU・CCUセンター副センター長兼臨床研修センター長兼地域医療支援センター長
2	高山 洋平	診療部長兼心血管内治療センター副センター長
3	城向 裕美子	診療部長
4	井上 直也	部長
5	平松 武宏	医長
6	組橋 裕喜	医長
7	鈴木綾子	医長（育児休業中）
8	三科 貴	医員
9	大日方 遼	医員

66

循環器内科

令和6年度 目標

医療の質向上

地域医療を守るため、多職種を含めたチーム医療のもと、絶対断らず、最善・最良の医療を提供する。
（病院の基本的かつ根本的な機能）

	項目	目標
1	緊急疾患への対応	24時間365日 断らない診療
2	地域開業医様との病診連携	紹介患者様/逆紹介患者様の増加
3	学術活動への積極的参加	臨床研究、学会発表、論文投稿の推進

専攻医の確保・教育研修

	項目	目標
1	研修医・専攻医の教育の充実	毎年・各年1人は循環器内科チームへの専攻医の確保（人材の大切さ）
2	症例数の確保	研修病院としての魅力を高め、研修医→専攻医へ

68

今後の展望

心臓血管外科開設

心臓血管外科 偏在の現状



今後の展望

心臓血管外科開設

心臓血管外科 偏在の現状



年度	心臓血管外科 紹介件数
R5年	52
R4年	90
R3年	80

決意

- ✓ よりよい診療をする為には、臨床研究や教育も必要と考え、三位一体で邁進します
- ✓ 多職種を含めたチーム医療のもと、開業医様と密に連携をとり、引き続き24時間365日絶対に断らず、地域医療に貢献します
- ✓ 心臓血管外科開設のための努力を継続し、さらに質の高い医療の提供を目指します



令和6年度 診療科目目標発表



外科 Surgery

73



外科



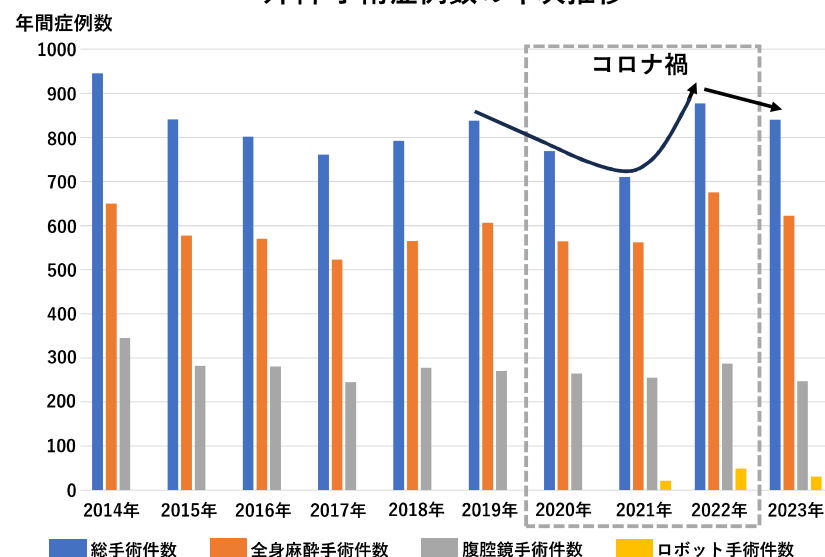
	氏名	役職
1	宮地 正彦	企業長兼院長兼がん総合診療センター長
2	京兼 隆典	副院長兼外科（統括）診療部長兼消化器外科（統括）診療部長兼消化器病センター長兼IVR・画像診断センター長兼がん総合診療センター副センター長兼化学療法センター長
3	河合 徹	副医務局長兼外科診療部長兼消化器外科診療部長兼呼吸器外科診療部長兼手術センター副センター長兼教育研修センター長
4	相場 利貞	診療部長兼消化器外科診療部長
5	久世 真悟	診療部長（任期付）兼血管外科診療部長兼乳腺外科診療部長
6	中橋 剛一	部長
7	深田 浩志	部長
8	斉藤 大佑	医長
9	池田 幸陽	医長
10	村田 結衣	医員兼救急科医員
11	石田 万智	医員兼救急科医員

74



外科

外科 手術症例数の年次推移

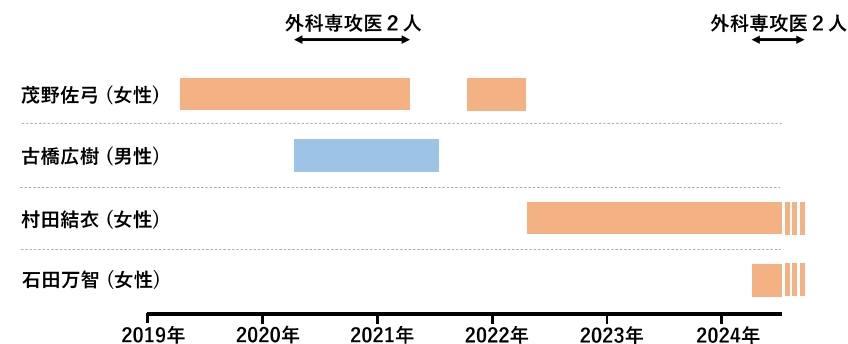


75



外科

外科 専攻医 在職期間



76

外科 専攻医 手術執刀数

【執刀総数】

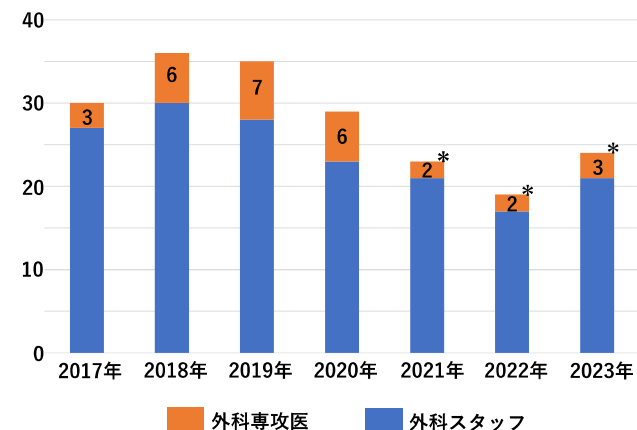
外科専攻医 (在職期間)	茂野佐弓(女性) (30ヵ月)	古橋広樹(男性) (15ヵ月)	村田結衣(女性) (27ヵ月)	石田万智(女性) (3ヵ月)
・全手術	533	188	473	29
・全身麻酔手術	353	114	350	18
腹腔鏡手術	169	62	192	12
ロボット手術	0	0	3	0

【1ヵ月あたり執刀数】

外科専攻医 (在職期間)	茂野佐弓(女性) (30ヵ月)	古橋広樹(男性) (15ヵ月)	村田結衣(女性) (27ヵ月)	石田万智(女性) (3ヵ月)
・全手術	17.8	12.5	17.5	9.7
・全身麻酔手術	11.8	7.6	13.0	6.0
腹腔鏡手術	5.6	4.1	7.1	4.0
ロボット手術	0	0	0.1	0

77

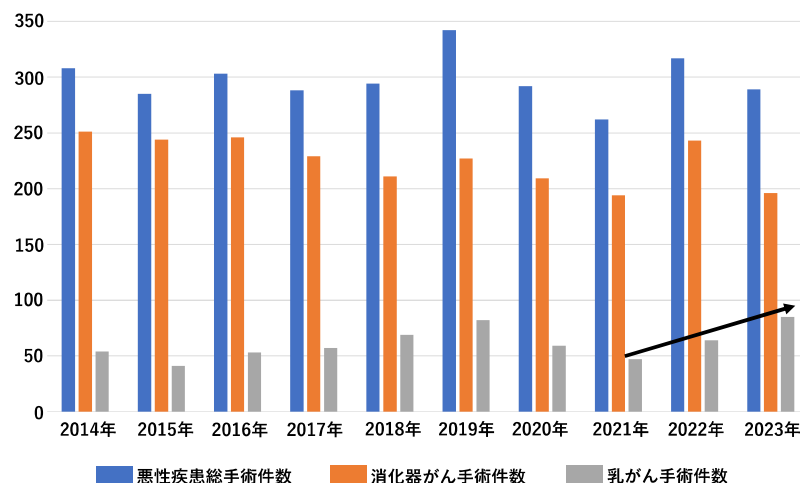
年間 学会・研究会 発表数



78

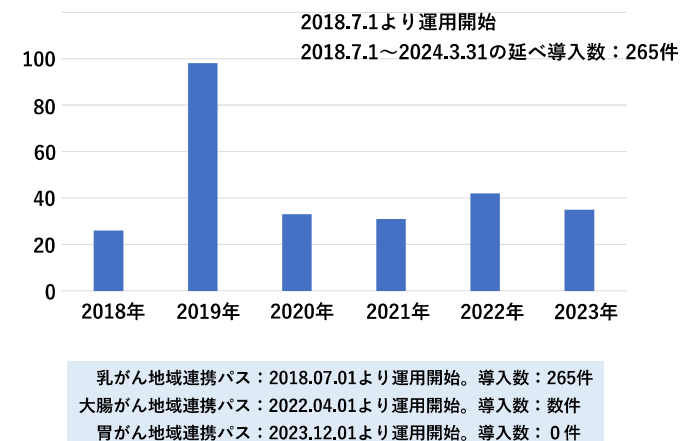
外科 悪性疾患 手術症例数の年次推移

年間症例数

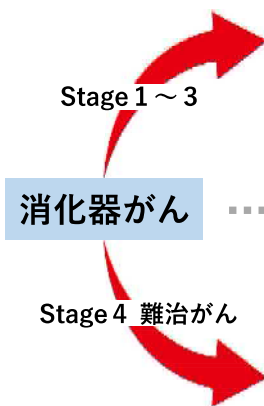


79

乳がん 地域連携パス 導入症例年次推移



80



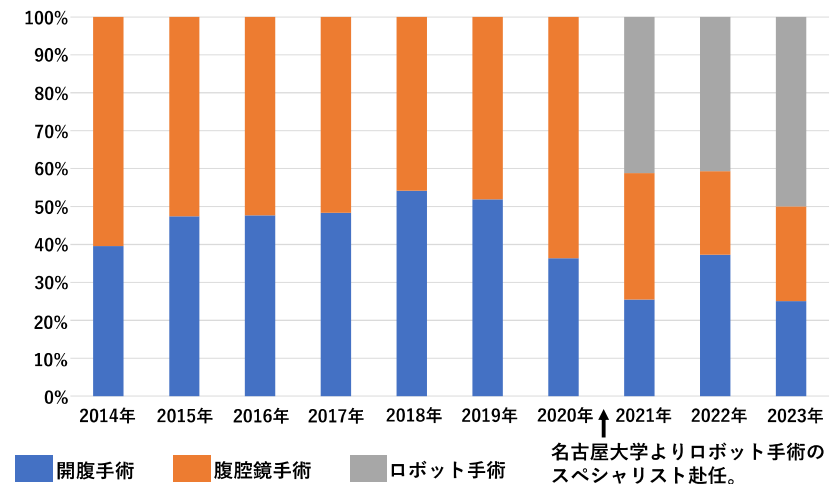
低侵襲手術



集学的治療 (拡大手術 + 化学療法)

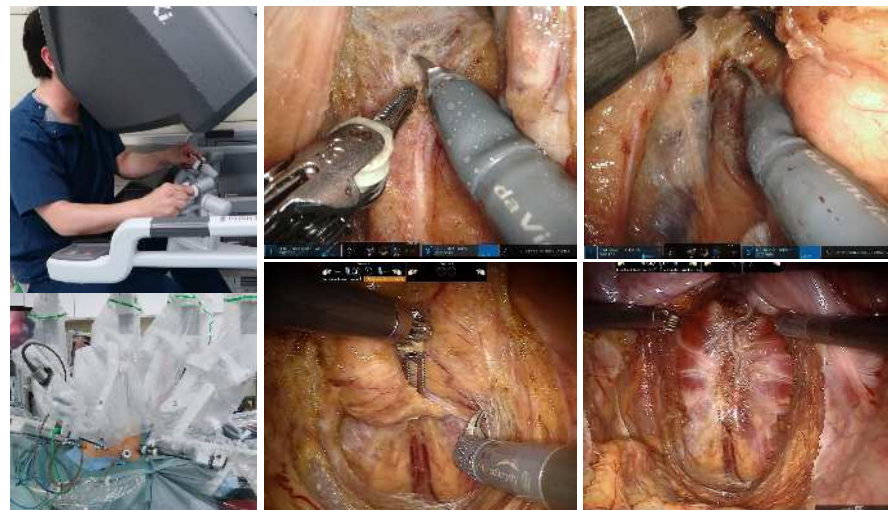
81

直腸がんに対する手術アプローチ法の年次推移



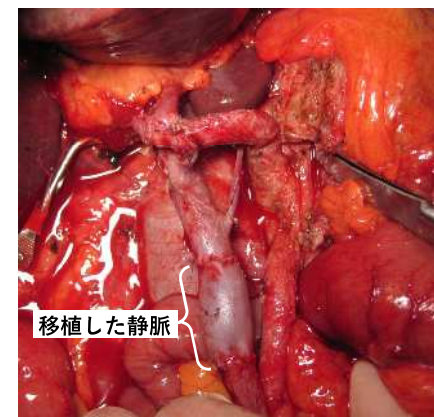
82

直腸がんに対するロボット手術



83

難治がん・進行がんに対する拡大手術・集学的治療



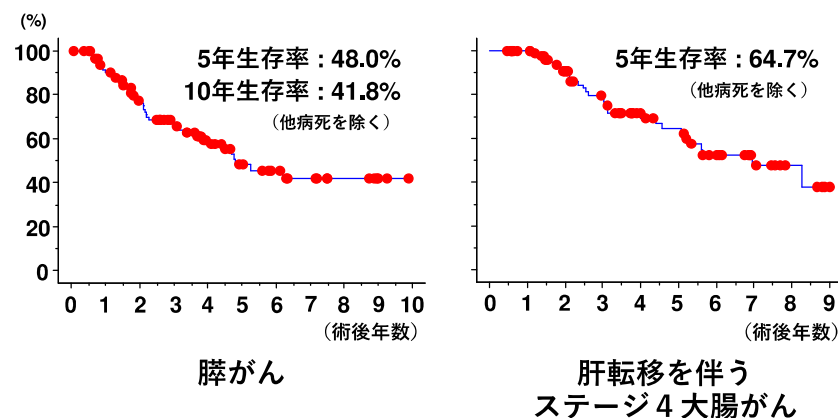
膵がんに対する
血管移植を伴う手術



多発肝転移を伴う
ステージ4 大腸がん

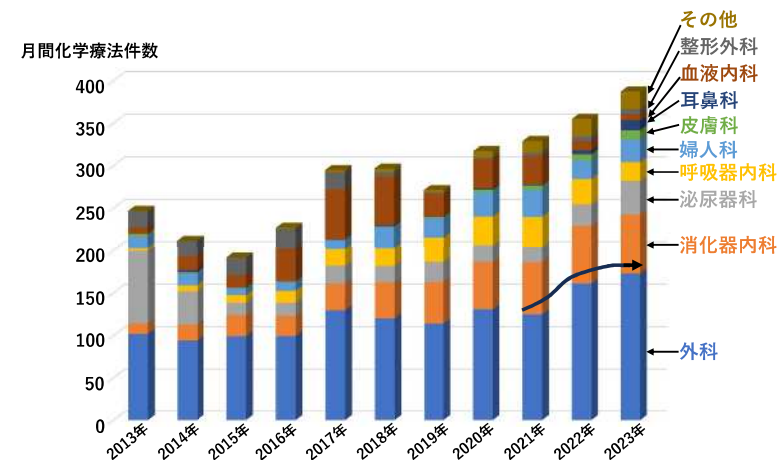
84

難治がん・ステージ4 進行がん：当科の治療成績



85

1ヵ月あたり外来化学療法件数の年次推移



86

《標準治療》

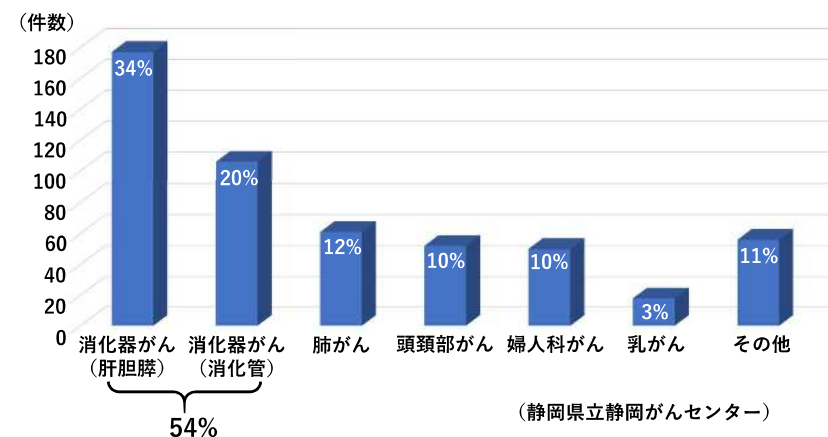


《がんゲノム医療》



87

静岡がんセンターにおけるがん遺伝子パネル検査提出検体のがん種別件数 (total: 520件)



88

中東遠医療圏におけるがんゲノム医療の実際



決 意

- 毎年最低1人の外科専攻医確保。
- 胃がん、大腸がんの地域連携パス推進。
- 乳がん症例数、消化器がん診療レベルの維持。
- 中東遠医療圏におけるがんゲノム医療の推進。

令和6年度 診療科目目標発表

整形外科 Orthopedic Surgery

93

整形外科

令和6年度 目標

1 診療目標

項目	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標
1日あたり入院患者数	51.3	41.8	49.5	58.3	52.0	60
新入院患者数（月）	94	88	102	100	104	110
手術件数（月）	80	85	100	99	102	110
外来初診患者数（月）	85	87	84	84	75	80
紹介患者数（月）	139	144	165	166	154	160
逆紹介患者数（月）	142	141	131	130	146	160



整形外科

	医 師	役 職 ・ 専 門
1	浦崎 哲哉	副院長 兼整形外科（統括）診療部長 兼リウマチ科診療部長 兼脊椎・脊髄センター長 兼医療安全管理室長 専門：脊椎
2	石井 久雄	院長補佐 兼整形外科診療部長 兼手外科センター長 兼臨床研修センター副センター長 専門：手外科、外傷一般
3	落合 聡史	部長 専門：股関節
・	横井 寛之（～2024.6）	医長 専門：股関節、外傷一般
4	坂東 皓介	医長 兼救急科医長兼災害対策室医長
・	片山 雄二郎（～2024.6）	医長 専門：膝・肩・スポーツ、外傷一般
5	藤田友樹（2024.7～）	医長 専門：膝・肩・スポーツ、外傷一般
6	大島 和馬（2024.7～）	医長 専門：脊椎、外傷一般
7	宮地 巧	医員兼救急科医員 専攻医
8	藤田 貴子	医員兼救急科医員 専攻医
9	山崎 寛也（2024.7～）	医員兼救急科医員 専攻医
10	北澤 謙太郎（2024.7～）	医員兼救急科医員 専攻医

(2020年) (2023年) (2024年)
整形外科医師数 7名 → 9名 → 10名

94

整形外科

令和6年度 目標

1 診療目標

	項目	目標
1	手術件数の増加	1,300件／年
2	紹介件数の増加	2,000件／年
3	逆紹介件数の増加	2,000件／年

2 医療の質向上 入院、手術を中心とした急性期診療機能の強化

	項目	目標
1	地域医療体制の強化	中東遠地域のすべての方へ急性期診療を提供する体制作り

96



3 働き方改革

	項目	目標
1	時間外労働の削減	すべての医師の時間外労働を60時間／月以下に
2	有給休暇取得の奨励	有給休暇1日／月、夏季休暇5日の取得

4 専攻医の確保

	項目	目標
1	教育体制の強化と専攻医の確保	1人以上の専攻医の確保 教育体制の強化と教育レベルの明確化

* R3年度から3年連続専攻医が来てくれています。

97

当科の特徴1：脊椎脊髓センター



・脊椎の外傷、疾患に対応します。

- ①外傷性脊髓損傷
- ②脊椎破裂骨折
- ③DISH骨折
- ④骨粗鬆症脊椎椎体骨折
- ⑤頸～腰椎椎間板ヘルニア
- ⑥頸椎症性脊髓症、腰部脊柱管狭窄症
- ⑦脊髓腫瘍
- ⑧転移性脊椎腫瘍

☆がん拠点病院における脊椎外科の役割：
転移性骨腫瘍に対する脊柱再建手術

98

様々な脊椎外傷・脊椎疾患に対する除圧手術をより正確で安全に行うために



様々な脊椎外傷・脊椎疾患に対する固定手術をより正確で安全に行うために





手外科センター

- 上肢の外傷・障害などの疾患に対し、専属のリハビリテーションスタッフとともに専門的治療を行っています
- 手指切断等の重度外傷を含めほぼすべての手外科疾患に対応可能です

令和5年度 診療実績

手外科手術 454件/年（令和4年度 404件、令和3年度 389件/年）

目 標

中東遠地域の手外科疾患のすべての患者さんの治療を当院で完結します！

- ・令和5年度は同時に外傷症例が重なったケース等で、年間で数例近隣病院へ治療をお願いしました...

是非ご紹介をお願いいたします（手外科初診外来 毎週火曜午後）

101



決 意

中東遠地域のすべての方に
質の高い整形外科診療を
提供します

103



当科の今後目指すところ

整形外科研修基幹病院となって、
静岡県西部の中核病院としての
役割を担うとともに、
当科から多くの整形外科医を育成する

102



令和6年度 診療科目目標発表

脳神経外科 Neurosurgery

105

脳神経外科

診療実績

項目	R1	R2	R3	R4	R5
1日あたり入院患者数（人）	40.3	32.0	36.6	32.4	32.8
新入院患者数（人／月）	60	55	63	53	55
手術件数（件／月）	16	12	13	15	13
血管治療（件／月）	6	4	6	5	4
外来初診患者数（人／月）	46	30	23	19	19
紹介患者数（人／月）	78	69	68	47	50
逆紹介患者数（人／月）	86	77	68	50	56

107

脳神経外科

	氏名	役職
1	鳥飼 武司	副医務局長兼脳神経外科（統括）診療部長 兼脳血管内治療センター長 兼ICU・CCUセンター副センター長
2	松尾 州佐久	診療部長兼脳血管内治療センター副センター長
3	北村 拓海	部長
4	林 裕樹	医長
5	妹尾 隆星	医員兼救急科医員

106

脳神経外科

(1) 脳神経外科の特徴

◇地域の脳神経外科として、common diseaseに対応ができる。

(1)脳卒中

- 一次脳卒中センターコア施設（県内8施設）

(2)認知症

- 外科治療によって改善する水頭症による認知症（全認知症の5%）に対して、市民への広報活動を行い、リハビリテーション科と連携して、適応を厳重に吟味して外科治療を行っている。

(3)慢性頭痛

- 日本人の約8.4%が片頭痛持ち、仕事への影響など社会的損失が大きい。

◇同時に、比較的まれでありながら、診療（診察、手術）には高度な技術を要する疾患にも、可能な範囲で対応している。

108

(2) 今後取り組んでいきたいこと①

地域が今後どうなるかを見据えたうえで、
今後の取り組むべき課題を検討する

医療需要の変化

- 高齢患者が占める割合が継続的に上昇
- 医療と介護の複合ニーズの更なる高まり
- 高齢者救急の増加
- 死亡数・看取りの増加
- 外来の変化
 - ・ 全国で患者数が2025年にピーク
 - ・ 多くの地域で既にピークアウト
- 在宅の変化
 - ・ 全国で患者数が2040年以降にピーク
 - ・ 多くの地域で患者数が今後も増加
- 入院の変化
 - ・ 全国で患者数が2040年にピーク
 - ・ 多くの地域で2035年までにピークアウト
 - ・ がん・心疾患・脳梗塞が相対的に低下
 - ・ 大腿骨骨折が相対的に上昇

- 脳卒中：急性期（生命）/回復期（生活）/慢性期（人生）
- 地域とのつながり
- 入院患者数の増加に拘泥しない。
- 寧ろ守備範囲を広げる

厚生労働省
新たな地域医療構想等に関する検討会
「2040年頃を見据えた医療提供体制」

109

(2) 今後取り組んでいきたいこと②

医療・介護人材の不足

- 就業者数の大幅な減少
- 医師の高齢化
- 勤務医の時間外労働規制の厳格化
- タスクシェア/タスクシフトやマルチタスク化の進行

◇新しい人が入るために

◇働き方改革

- 余暇、休業の取得
- 効率的な働き方と同時に労働に対する正当な評価と報酬

厚生労働省
新たな地域医療構想等に関する検討会
「2040年頃を見据えた医療提供体制」

110

(3) 地域のために貢献できること

地域には何が必要かを見据える

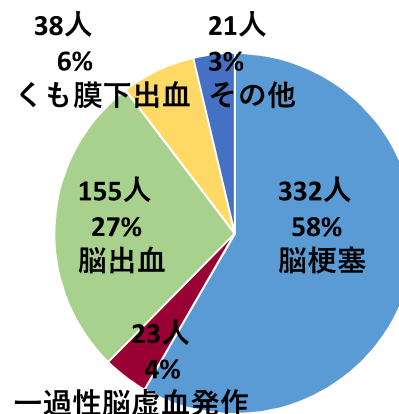
2-1 死亡原因（静岡県）（2022年）



- 第2次静岡県循環器病対策推進計画案(2024年)
- 県全体を全国と比較した場合、脳血管疾患全体、また、**脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血のいずれも、全国よりも高くなっています。**
- 特に**脳内出血が最も高くなっています。**
- **介護が必要となる主な要因となっております。**

111

脳卒中(2023年中東遠)：569人が入院



・ 脳卒中は人口10万人あたり年間200人発症
・ 昨年は570人が入院

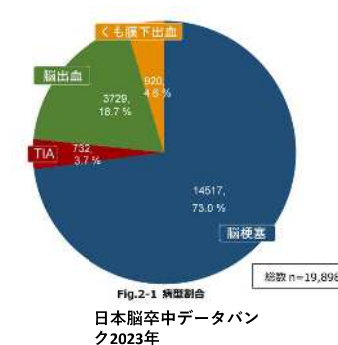


Fig.2-1 病態割合
日本脳卒中データバンク2023年

112



決 意

個人そしてチームとして
診療技術をさらに高め
脳卒中治療をはじめとする
地域医療に貢献します



令和6年度 診療科目目標発表

産婦人科 Obstetrics and Gynecology

117

産婦人科

令和6年度 目標

1 診療目標

項 目	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標
1日あたり入院患者数（人）	25.4	19.8	21.2	19.7	18.8	20
新入院患者数（人／月）	99	75	88	82	80	80
手術件数（件／月）	40	32	39	39	37	40
分娩件数（件／月）	45	33	32	30	26	25
外来初診患者数（人／月）	90	73	74	68	72	70
紹介患者数（人／月）	114	99	98	93	95	100
逆紹介患者数（人／月）	28	19	21	20	21	20

119

産婦人科

氏 名	役 職	資 格
村上 裕介	院長補佐 兼 産婦人科(統括)診療部長 兼 手術センター副センター長	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本周産期・新生児医学会 周産期（母体・胎児）専門医・指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 母体保護法指定医 臨床研修指導医 医学博士
田中 晶	診療部長 兼 がん総合診療センター診療部長	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本婦人科腫瘍学会専門医・指導医 日本産婦人科内視鏡学会技術認定医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 医学博士
戒野 詩織	医長	日本産科婦人科学会専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
杉村 亮	医長	日本産科婦人科学会専門医
窪川 瑞生	医員	

118

産婦人科

令和6年度 目標

2 医療の質向上 より専門性の高い医療

	項 目	目 標
1	産科医療	正常妊娠からハイリスク妊娠までの取り扱い 母体緊急搬送の可能な限りの受け入れ 超緊急帝王切開時の体制の維持
2	がん診療	高度な技術を要する悪性腫瘍手術から 終末期医療まで取り組む
3	腹腔鏡手術	良性腫瘍手術での適応拡大 ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術の保険収載

120

3 働き方改革

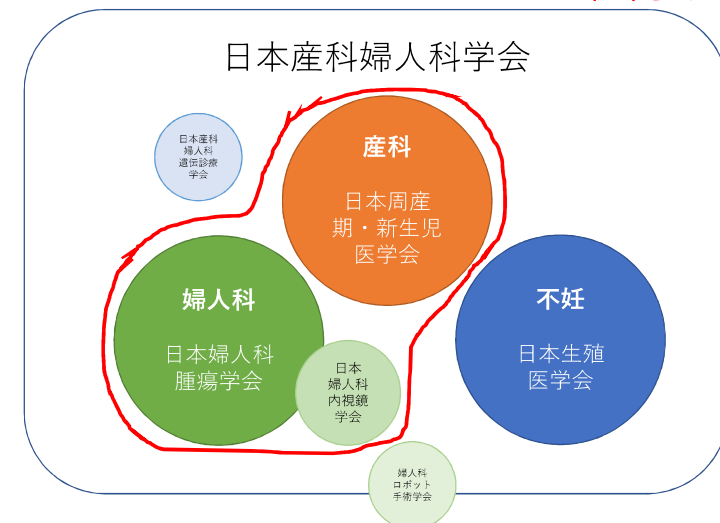
	項 目	目 標
1	時間内業務	見込まれる緊急対応や手術は、時間内に迅速に対応する
2	周産期医療における輪番制導入	中東遠医療圏内の周産期医療の維持をめざす

4 専攻医の確保・教育研修

	項 目	目 標
1	回診、症例カンファレンス	外来および入院患者の情報を共有し、治療方針を明確にし、専攻医へ教育をする
2	産婦人科専門医に続く、サブスペシャリティの取得	周産期専門医、婦人科腫瘍専門医、内視鏡技術認定医を取得可能な修練施設である

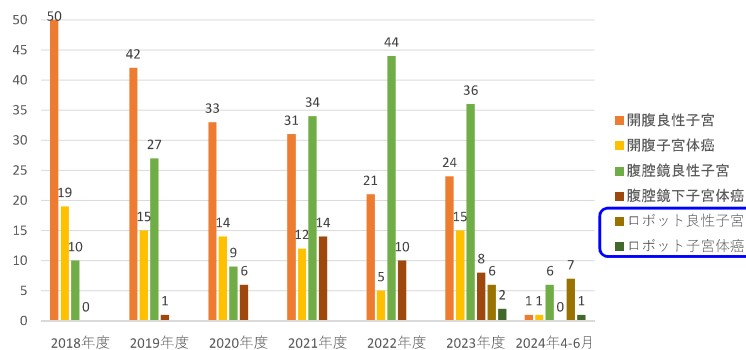
121

サブスペシャリティを取得する



122

ロボット子宮体癌手術の保険収載



2017/9月 腹腔鏡下子宮付属器（卵巣卵管）摘出手術

2018/11月 腹腔鏡下子宮摘出手術

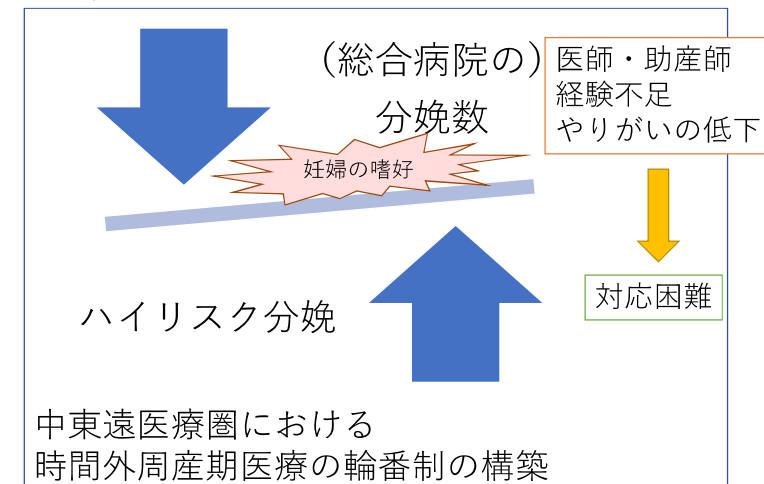
2019/2月 腹腔鏡下子宮体癌手術

2023/10月 ロボット子宮摘出手術

2024/2月 ロボット子宮体癌手術

123

持続可能な産婦人科医療



124



決 意

産婦人科専門医、専攻医とも、
新しい知識や技術の習得を目指し続け、
地域住民に安全な産科婦人科医療を
提供できるように精進します。



令和6年度 診療科目目標発表

泌尿器科 Urology

129

泌尿器科

	氏名	役職	卒年度	備考
1	松本 力哉	診療部長	H14年	泌尿器科専門医・指導医 ロボット支援手術プロクター認定医
2	佐藤 亮	医長	H27年	泌尿器科専門医 ロボット支援手術認定医
3	柿沼 俊吾	医長	H30年	ロボット支援手術認定医
4	内山 明日香	医員	R2年	ロボット支援手術認定医



非常勤医師
浜松医大 泌尿器科大塚 篤史准教授
(第1・5木曜日 手術)

130

泌尿器科

令和6年度 目標

1 診療目標

項目	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標
1日あたり入院患者数	20.8	16.3	16.3	17.2	19.0	20
新入院患者数(月)	67	59	65	69	74	75
手術件数(月)	42	43	46	49	49	50
ロボット支援手術件数(年)	32	39	34	38	38	40
外来初診患者数(月)	41	38	43	39	79	50
紹介患者数(月)	72	70	79	79	50	80
逆紹介患者数(月)	51	41	38	39	19.0	50

131

泌尿器科

令和6年度 目標

2 医療の質 手術の安全性向上と地域連携強化による診療体制の充実

	項目	目標
1	ロボット支援手術の安全性向上	事故0件
2	地域連携の強化	紹介件数 960件/年 逆紹介件数 600件/年

3 教育研修 後期研修医の確保と腹腔鏡手術技術の向上

	項目	目標
1	泌尿器腹腔鏡技術認定医の育成	数少ない手術件数で申請
2	ロボット支援手術プロクター取得	新規プロクター申請
3	専攻医もしくは後期研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化

132

ロボット支援手術のさらなる拡大

ロボット支援前立腺全摘除術・・・導入から約7年で**300件以上**

ロボット支援腎摘除術・・・導入から約2年で**23件**

→さらなる症例数の追加

●今後の目標は下記導入

- ①ロボット支援腎部分切除術（Robot assisted partial nephrectomy:RAPN）
- ②ロボット支援腎盂形成術（Robot assisted pyeloplasty:RAPP）
- ③ロボット支援膀胱全摘除術（Robot assisted radical cystectomy:RARC）



133

決意

手術全般を安全に行い、
ロボット支援手術の普及に努め、
患者負担の軽減や手術患者増加
を目指す。

135

ロボット支援手術システムも各社より開発・競争本格化

川崎重工が開発した純国産手術支援ロボット



サージョンコグニット オペレーションユニット モニタカート
Copyright © Mediaroid Corporation All Rights Reserved. © Tezuka Productions

さすが国産！価格はダヴィンチの約半値！！

134

令和6年度 診療科目目標発表

皮膚科・皮膚腫瘍科 Dermatology ▪ Skin Oncology

137

皮膚科・皮膚腫瘍科



	氏名	役職
1	大塚 正樹	(統括) 診療部長, 皮膚科専門医
2	戸倉 新樹	参与兼皮膚科・皮膚腫瘍科診療部長兼アレルギー疾患研究センター長, 皮膚科専門医
3	近藤 峻平	医長
4	柚木 菜里那	医長
5	池羽 杏菜	非常勤医師, 形成外科専門医

138

皮膚科・皮膚腫瘍科

令和6年度 目標

1 診療目標

項目	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標
1日あたり入院患者数(人)	8.3	6.3	7.5	6.8	8.7	9.0
新入院患者数(人/月)	21	21	23	21	22	22
手術件数(件/月)	17	23	25	29	24	26
紹介患者数(人/月)	82	86	101	104	103	104

139

皮膚科・皮膚腫瘍科

令和6年度 目標

2 医療の質向上

	項目	目標
1	皮膚科診療の習熟	幅広い皮膚疾患の治療に精通する。
2	アトピー性皮膚炎, 乾癬に対する薬物療法の強化	特に治療に難渋する症例を積極的に受け入れ, 基幹病院ならではの治療を提供する。
3	皮膚科領域手術の拡大	境界領域皮膚がん(眼瞼, 口唇, 陰股部)に対する手術症例の増加。
4	皮膚がん薬物療法の強化	圏域外病院へ周知し, 薬物療法症例の増加。

140

3 働き方改革

	項目	目標
1	科内/病棟カンファレンス	勤務時間内での開催
2	時間外勤務	月45時間未満, 年間360時間未満
3	年次有給/リフレッシュ休暇	年間10日以上取得

4 教育研修・専攻医の確保

	項目	目標
1	教育研修	年4回以上の学会・研究会に参加・発表
2	専攻医の確保	皮膚科領域に関する教育指導を充実させ, 皮膚科志望医師を毎年1名確保

141

6 今後取り組んでいきたいこと

皮膚科研修基幹施設として「中東遠ブランド」の確立

魅力ある研修プログラムで安定的に専攻医を受け入れ, 教育の場を提供し, 育成し, さらに将来に対しての展望を与えるよう誘導する.

県中部・西部における皮膚科診療の中心施設となる

- ・炎症性皮膚疾患診療の拠点となる.
- ・皮膚がん診療の「最後の砦」として機能する.

143

5 当科の特徴

広い皮膚科の臨床を楽しく学び, 知的でユーモアに溢れた診療科

皮膚科専門研修基幹施設 (大学病院以外では全国11施設)

- ・内科的皮膚科に強い
アレルギー疾患研究センターを運営しており, 数々の皮膚アレルギー疾患に対応可能.
- ・外科的皮膚科に強い
手術件数は県内有数, 対応可能疾患は全国有数.

令和5年度学術業績

- ・論文発表実績 10編 (うち英語5編)
- ・学会/研究会発表実績 59件

142

7 地域のために貢献できること

中東遠医療圏における皮膚科医師不足の解消

当科専攻医が専門医を取得し, 皮膚科医として成長することで, 中長期的に継続して中東遠医療圏の皮膚科医療に貢献できる.



144

決 意

全国有数の皮膚科基幹施設として
皮膚科診療の質を高め、治療成績を向上させ、
患者ニーズに応えていきます。



令和6年度 診療科目目標発表



眼科 Ophthalmology

149



眼科



	氏名	役職	資格
1	堀田 喜裕	副院長兼がん総合診療センター副センター長 兼がんゲノム診療センター長	眼科専門医
2	宇佐美 貴寛	部長（診療科長）兼アレルギー疾患研究センター部長	眼科専門医
3	田中 彩乃	医長	眼科専門医
4	山田 亮佑	医長	眼科専門医
5	山下 理実	医員	

150



眼科

令和6年度 目標

1 診療目標

項目	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標
1日あたり入院患者数（人）	6.5	7.8	9.4	9.9	8.7	9
新入院患者数（人／月）	58	69	82	100	102	110
手術件数（件／月）	96	104	137	155	160	170
外来初診患者数（人／月）	63	59	73	75	76	80
紹介患者数（人／月）	77	73	97	106	105	110
逆紹介患者数（人／月）	57	44	51	63	64	70

151



眼科

令和6年度 目標

2 医療の質向上 診療の効率化と質の向上

	項目	目標
1	網膜硝子体手術の増加	緊急性の高い疾患に早期に加療いたします。 難疾患も安全に加療できるよう、最新の技術を取り入れ続けます。
2	低侵襲緑内障手術の増加	低侵襲緑内障手術を導入し、良好な眼圧下降が得られています。早期に低侵襲な手術介入することにより、長期的に視機能維持につなげます。 デバイスの進化が続いており、術式も増えています。使い分けることで最適な治療を検討していきます。

152



3 働き方改革

	項目	目標
1	現状維持	眼科は時間内になるべく終わるよう全力を尽くしています。 休みも取りやすい体制にしています。
2	コメディカルとの連携	昨年度から入力業務を依頼するようになっています。連携を密に取って、より最適な体制を目指していきます。

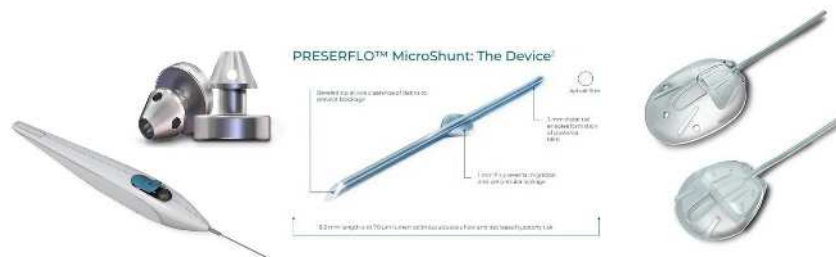
4 専攻医の確保・教育研修 数年後に必要となることへの投資

	項目	目標
1	研修医の確保と教育の充実	ローテートした研修医への個別指導
2	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化と教育レベルの明確化



低侵襲緑内障手術であるiStent inject wは県内でもトップクラスの施行件数です。
最新デバイスも積極的に取り入れており、ブリザーフロマイクロシャントも導入しました。

重症緑内障では従来通りのtrabeculectomy、またAhmed glaucoma valveのインプラントも行います。



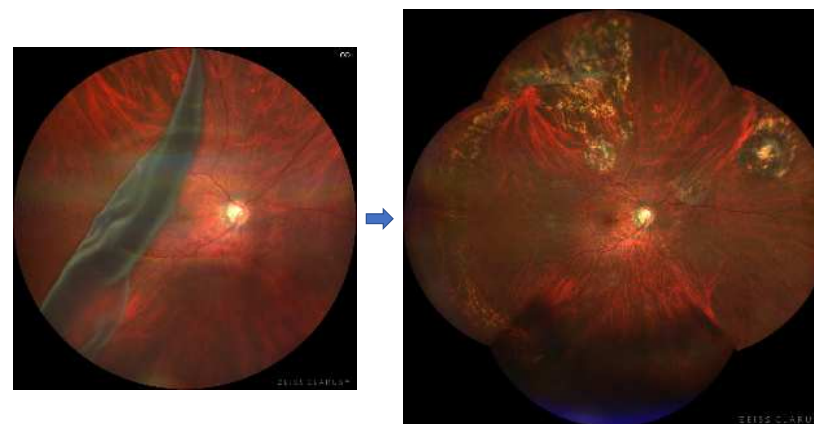
眼科の特長・PR

眼科の何でも屋を目標にしています！

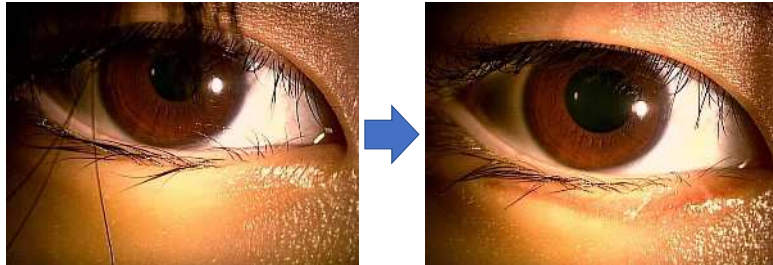
項目	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
白内障手術	783	886	1,183	1,372	1,276
白内障手術（強膜内固定術）	0	8	14	20	21
硝子体手術	0	88	148	177	179
緑内障手術	10	55	150	132	157
眼瞼手術	18	3	17	21	50
斜視手術	10	0	1	1	1



硝子体手術は網膜剥離といった緊急疾患にも対応しています。
週4日の手術日で無理なく早期な治療を計画しています。



眼瞼下垂や眼瞼内反症、睫毛内反症などの眼瞼手術も積極的に行っています。
CO2レーザーを用いて低侵襲、短時間の手術を行っています。



今後の展望、地域への貢献
・出来る限り当地域で完結できるよう、診療体制の維持、診療のアップデートを続けたい。

当院で対応困難な眼疾患

- ・角膜移植
- ・上下・回旋斜視手術（水平斜視は手術加療可能）
- ・眼窩骨折手術
- ・鼻涙管吻合術

形成外科も関わる内容であるので、当科のみでは解決出来ないものもある。
角膜や斜視に関しては、将来的に大学の専門医と連携して体制を作れたらいいなと思っている。

決意

中東遠地域の基幹病院として、
地域の先生方と連携を取り、
医療の質向上に努めていきたい
と思います

令和6年度 診療科目目標発表

耳鼻いんこう科 Otorhinolaryngology

161

耳鼻いんこう科



	氏名	役職
1	増田 守	医長（診療科長）
2	池羽 宇宙	医長兼臨床研修センター医長
3	中嶋 海帆子	医員兼救急科医員

162

耳鼻いんこう科

令和6年度 目標

1 診療目標

項目	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標
1日あたり入院患者数（人）	12.8	12.3	9.9	9.8	10.5	12
新入院患者数（人／月）	49	45	37	36	42	45
手術件数（件／月）	22	21	16	22 (1位)	24	30
外来初診患者数（人／月）	85	75	80	94 (1位)	94	100
紹介患者数（人／月）	110	102	110	129 (1位)	129	130
逆紹介患者数（人／月）	26	27	25	32 (1位)	32	35

- ① ご紹介いただく開業の先生方との連携強化
- ② 入院患者数の増加
- ③ 手術件数の増加

163

耳鼻いんこう科

令和6年度 目標

2 医療の質向上

	項目	目標
1	手術件数の増加	手術技術向上、時間短縮による手術件数の増加（30件/月）
2	新たに導入した手術器械や検査の増加	鼻副鼻腔手術における、マイクロデブリッター、鉗子類の充実
3	新たに導入した治療法	難治性副鼻腔炎に対する生物学的製剤の導入

164

3 働き方改革

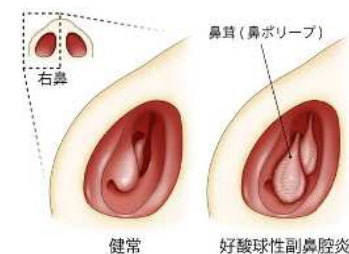
	項目	目標
1	予約新患枠の増加	当日外来受診枠を減らして効率の良い外来診療、長時間手術の枠確保
2	女性医師や働き世代の医師の充実	女性医師や働き世代の医師も安心して当院で仕事ができるための環境整備

4 専攻医の確保・教育研修

	項目	目標
1	大学と連携した教育体制の強化	専門医、専攻医の確保、育成
2	学会認定施設の取得	日本鼻科学会認定鼻科手術認可施設 一今年度

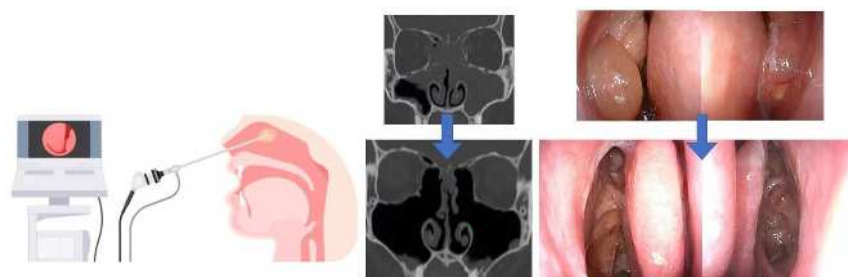
好酸球性副鼻腔炎

- 細菌やウイルスに感染して起こる副鼻腔炎とは異なる、難治性の病気
- 鼻・副鼻腔に多数のポリープ（鼻茸）ができて、鼻づまりや嗅覚障害を起こす
- 国の指定難病
- 患者数は年々増加傾向



内視鏡下鼻副鼻腔手術(ESS)

- 鼻の穴から内視鏡を入れ、鼻の中で手術が完結→外見への影響なし
- 内視鏡下にポリープを除去し鼻・副鼻腔の空間を拡大
- 内視鏡を使わない手術と比べて出血・疼痛・後遺症が少ない



内視鏡下鼻副鼻腔手術(ESS)

- 手術支援機器、鉗子類の充実により、安全で確実な手術が短時間で可能に



マイクロデブリッター



鉗子類



磁場式ナビゲーションシステム

生物学的製剤(デュピルマブ)

- 術後再発した場合に適応
- 2週間毎自己注射
- ほとんどの症例でポリープが縮小・消失し、嗅覚障害や鼻閉が改善

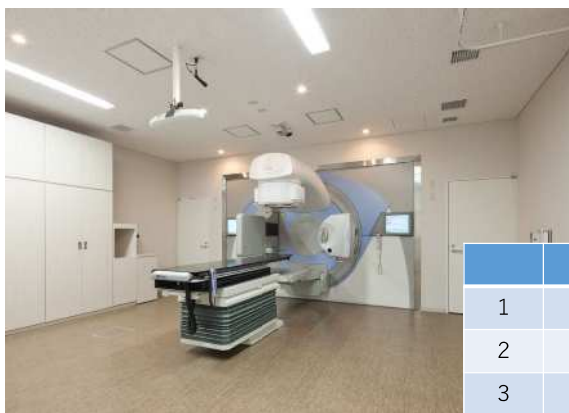


手術・生物学的製剤の二刀流で治療

決意

- ご紹介いただく開業の先生方との連携を密にします
- 今後も高度で信頼される医療を患者様に提供し続けます

がん診療を支える放射線治療



	氏名	役職
1	一戸 建志	診療部長
2	若林紘平	非常勤
3	太田尚文	非常勤

173

2 医療の質向上 照射方法の適切な選択と精度の向上

	項目	目標
1	患者ごとに最適な照射方法の選択	○ IMRT多用などでおおよそ達成 → 引き続き高い達成率を目指す。また前立腺癌治療の安全性を高めるため スぺーサー の導入を目指す
2	放射線治療装置の精度の維持管理	△ 患者固定精度にやや難があった → 固定具の改良により○を目指す

175

1 診療実績及び目標

項目	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標
1日あたり照射患者数（人）	24.3	22.3	20.1	19.1	18.5	19
1か月あたり放射線照射件数	516	482	505	498	508	510

174

3 働き方改革

	項目	目標
1	働きやすさの追求	フレックスタイムの導入を目指す
2	業務の効率を高める	複数の業務の遂行能力を高める

4 専攻医の確保・教育研修 教育体制の強化と研修医の確保

	項目	目標
1	教育体制の強化	△ 浜松医大との連携、協力関係を再構築中
2	研修医の確保	× 未達成 → 放射線治療のPR法を検討

176

当科のトピック

①新しい放射線治療装置の導入

②治療件数の増加に向けて

①新装置の導入

新しい放射線治療装置

Radixactと**CyberKnife**を導入予定
1台→2台体制へ

Radixact（ラディザクト）

Accuray社トモセラピーの最新装置



広範囲の放射線治療に非常に有用

- ・ 食道癌＋頭頸部癌の同時照射
- ・ 全脳全脊髄照射

つなぎ目のない
美しい線量分布

線量均一性
＋
原体性

CyberKnife（サイバーナイフ）

特徴

ロボットアームの先に取りつけられた放射線治療装置が体の周りを自由に動き集中的に放射線を腫瘍に照射

サイバー（機械を用いて）+ **ナイフ**（切り取る）
→手術で切り取ったような**ピンポイント**の照射（定位照射）

ガンマナイフでは照射が困難であった、
大きな脳腫瘍、重要臓器近傍の腫瘍への照射が可能に

国内の導入施設

Radixact & CyberKnife^(M6以降のシリーズ)

2台導入

国内では当院含め**3施設のみ**

高精度放射線治療

Radixact

広範囲な照射
多くのIMRT



+

CyberKnife

定位照射



2台体制で多くの症例に対応

②治療件数の増加に向けて

緩和照射の件数を増やす

症状が出る前から照射で対応

オリゴ転移に対する根治的な治療を

オリゴ転移＝限局的で**少数個のがんの転移**のこと

照射依頼件数↑が期待できるケース

オリゴ転移 定位照射 →局所制御・予後延長
治療期間も短い（1～5日程度）

緩和照射 「他の選択肢がなくなったので・・・」
→「出てきたら早めに対応！」

高齢者・手術不能
全身状態・社会的背景に合わせた治療

まずは適応についてご相談・検討を！



決意

1. 新機種2台体制に備え、関連スタッフの強化
2. 放射線治療の質、件数を増やし収入増をめざす
3. 女性技師への放射線治療の教育機会を増やす

昨年度未達成であった次の目標達成に努めます



スタッフ一同、地域のがん患者さんに最適な放射線治療を提供します

令和6年度 診療科目目標発表



麻酔科 Anesthesiology

189



麻酔科

★日本麻酔科学会指導医



	氏名	役職
★ 1	内山 智浩	副院長兼麻酔科（統括）診療部長兼手術センター長 兼がん総合診療センター副センター長 兼緩和ケア支援センター長
★ 2	山本 洋子	診療部長（任期付）兼がん総合診療センター副センター長
★ 3	秋永 泰嗣	診療部長
4	姜 乃佳	部長
5	小澤 未佳	医員
6	石野 起也	医員
★ 7	鈴木 みどり	週4日勤務

190



麻酔科

令和6年度 目標

1 診療目標

項目	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標
手術件数（全科）（件／月）	410	417	473	517	520	550
全身麻酔件数（全科）（件／月）	167	159	167	191	191	205

手術件数はすでに飽和状態に近いため、

10室稼働から11室稼働への環境整備をして頂きました。

基本的に手術をお断りすることはありません。

191



麻酔科

令和6年度 目標

2 医療の質向上

	項目	目標
1	術後疼痛管理	術後疼痛管理プロトコルの作成、術後疼痛管理チームを編成し、術後疼痛管理チーム加算の算定を目指す
2	医療安全	3 b以上の事故「0」 術前評価を的確に行う
3	急性期充実体制加算	緊急手術350/年以上
4	産科救急への対応	いわゆるGradeA帝王切開対応のシミュレーション、緊急分娩室での麻酔管理

患者様の安心・安全を第一に考え、
「物言う麻酔科」を標榜しています。

192

3 働き方改革 いつかは実現したい！

	項目	目標
1	看護師特定行為研修	周術期特定看護師を育成したい。 (特定行為とは、医師の包括的指示の下に行われる診療の補助)
2	効率的な手術室運営	17時以降は麻酔科医最大でも2名体制 (あとは退勤) そのためにも高リスク症例は早めの入室をお願いし、待ち時間短縮に取り組んでいます。

タスク・シェアの実現、長時間労働の解消を通じて柔軟な働き方を目指していきます。

193

5 専攻医の確保・教育研修 麻酔科からの院内外へ情報発信

	項目	目標
1	救急蘇生の講習会	院内 ICLSディレクター BLSインストラクター
2	緩和ケア研修会	院内はもちろん院外にも幅を広げる
3	麻酔科ハンズ・オンセミナー	研修医ばかりでなく上級医へも中心静脈カテーテル挿入法や気道管理についてともに学んでいく
4	麻酔科専門医の情報共有	麻酔科危機管理マニュアルシートの作成
5	各種専門医取得可能	日本麻酔科学会、日本ペインクリニック学会、日本緩和医療学会

専攻医・初期研修医に麻酔の魅力を伝え、更に人員の確保に努める。(専門研修プログラムも準備中)

195

4 緩和医療、ペインクリニック

	項目	目標
1	緩和ケア病床の設立	5床で開始しております
2	がんとの共生	全てのがん患者様およびその家族様等の療養生活の質の向上 (まずは取りこぼさないシステムの構築)
3	難治性疼痛治療	専門的治療の提供 県西部がん診療拠点病院群と連携して各種インターベンショナル治療(高度な神経ブロック)を行っています

主治科紹介とともに麻酔科にも対象患者さんをご紹介下さい

194

決意

引き続き“手術を受けるなら中東遠”
安心して手術を受けられる体制づくりに努めます

がん診療連携拠点病院指定を果たしました。
緩和医療でも力を発揮します

今年度も特に教育の側面から麻酔科の情報を発信して、院内外に麻酔科の存在をアピールします



令和6年度 診療科目目標発表

リハビリテーション科 Department of Rehabilitation Medicine

197

リハビリテーション科



	氏名	役職
1	渡邊 浩司	部長（診療科長）
2	小笹 陽子	医員
3	内藤 隆行	医員兼救急科医員

198

リハビリテーション科

令和6年度 目標

1 診療目標

リハビリテーション科医師赴任

項目	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標
入院患者数/月	0	0	0.2	0.8	1.3	2
外来患者数/月 外来件数/月	159人	129人	198人 784件	268人 860件	1,100件	1,200件
ボツリヌス治療件数	0	0	84	138	181件	300件
心肺運動負荷試験	0	0	17	75	60	80件
嚥下造影検査	約100	約100	200	155	146	100件
嚥下内視鏡検査	0	0	27	72	60	70件

199

リハビリテーション科

令和6年度 目標

2 医療の質向上 外来・入院を中心とした診療機能の強化 専門的なリハビリテーション医療の提供

	項目	目標
1	適切なリハビリテーション医療の提供	リハ処方箋全例介入 誤嚥・窒息の活動
2	専門外来の拡充と解説	心臓リハビリテーションの拡充 スポーツリハビリの質の向上
3	周術期リハビリテーションを徹底し、術後合併症の減少と術後入院期間の減少	ICU・救急病棟でのリハ早期介入 土日リハビリの拡充 周術期リハビリテーションシステム
4	リハビリテーション医療の質の向上	リハビリスタッフの人員増加 スタッフへの教育と指導

200

3 働き方改革 有休の取得

	項目	目標
1	時間外時間	60時間以下/月を目標
2	有休消化	5日以上

4 専攻医の確保・教育研修 初期研修医への指導、専攻医の確保

	項目	目標
1	教育体制の強化と研修医の確保	教育体制の強化。 他病院との差別化を図り、研修医の確保につなげる。
2	専攻医への教育を充実	浜松医大・聖隷グループ・東海大学と専攻医プログラムの連携協力病院に認定。

専門外来：ボツリヌス治療専門外来
顔面神経麻痺リハビリテーション外来

- 2023年度
眼瞼痙攣・顔面痙攣 101件
痙攣性斜頸 16件
上下肢痙攣 84件
- 4歳～93歳まで、小児からご年配の方まで、様々な疾患に対応しております。
- 2024年度見込み 年400件見込み
- 他県からも来院されております。現在 3か月待ち
- 顔面神経麻痺リハビリテーション外来
- Google検索：病院検索で全国10位以内

当科の特徴

- 日本リハビリテーション医学会 専門医・指導。
- JSPOスポーツドクター。JPSAパラスポーツ医。
- 様々な領域の専門性の高いリハビリテーション治療を提供できる。また、その治療のための入院治療が可能。
- 専門性の高い嚥下評価・嚥下リハビリテーションの提供。
小児（生後4ヶ月以降～。定頸）
- ボツリヌス治療専門外来
- 装具・義肢外来
- 自動車運転再開評価外来
- 書類外来（身体障害者手帳、障害年金手帳、精神保健手帳など）etc...

専門外来：リンパ浮腫外来

がん拠点病院 当科の強み①

- 専門的なリハビリテーション治療を行うリンパ浮腫チームが対応します。
- 県内初リンパ浮腫のリンパドレナージのためのリハビリテーション入院治療ができる。
- また患者一人一人に合った弾性着衣が試着でき、最適な弾性着衣を提供します
- 県内初、リンパシンチグラフィーを行い、適切に評価し、最適なリハビリテーション治療を提供できる。
- google検索上位：静岡県で3番目



周術期リハビリテーション（術前から術後、生活復帰後も）

- ・ICU・救急病棟にリハビリスタッフ常勤8名を配置しています。
- ・医学的根拠のある術前リハビリテーションを行っています。
- ・術後の肺炎予防のためや体力低下を予防するために、早期から離床しリハビリテーションを行っています。体力を維持し退院を早め、入院期間の短縮に努めています。
- ・術後や退院後のアフタフォローをしています。



205

専門外来：自動車運転の再開評価外来

リハビリテーション科・室では、脳疾患患者の自動車運転再開について適切な脳機能の評価と診断書を作成しています。
2022年6月15日袋井市警察署から地域の交通安全に寄与しているとのことで感謝状を頂きました。
静岡新聞に掲載されました。

年間評価人数 232名
実車評価 8～18件/月

評価件数は、**全国1位**



206

専門外来：スポーツリハビリ外来

- ・スポーツと医学の融合
- ・障害予防とパフォーマンスUP
- ・国内の様々なメーカーやトレーニングセンターの見学・研修を進めています。



ラブソード®：球速、ボールの回転数、リリースポイントなどが科学的に分析。

207

決意

地域住民の方が、可能な限り住み慣れた環境で
口から食べ、自分で歩き、
生きがいを持って日常生活を送れるよう、
全力でサポートします。

あらゆる疾患に対する
質の高いリハビリテーション医療を提供し
地域医療に貢献します。

208

令和6年度 診療科目目標発表

歯科口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery

209

歯科口腔外科



	氏名	役職	資格
1	夫 才成	診療部長	日本口腔外科学会専門医、日本口腔科学会認定医 日本口腔インプラント学会専門医 医学博士
2	荻須 宏太	部長	日本口腔外科学会認定医、日本口腔科学会認定医 医学博士
3	太田 優也	医長	口腔外科認定医、医学博士
4	安江 玲太	医長	日本口腔外科学会認定医

歯科口腔外科

令和6年度 目標

1 診療目標

項目	R1	R2	R3	R4	R5	R6 目標
1日あたり入院患者数（人）	3.8	4.6	5.0	5.1	6.2	6.3
新入院患者数（人／月）	41	55	56	57	68	69
手術件数（件／月）	20	20	24	28	33	34
外来初診患者数（人／月）	196	223	218	219	239	240
紹介患者数（人／月）	151	186	178	179	198	199
逆紹介患者数（人／月）	123	136	146	147	165	166
周術期口腔機能管理初診患者数（人／月）	40.9	39.8	36.4	41	37	45

211

歯科口腔外科

令和6年度 目標

2 働き方改革 レジリエントな医療チーム作り

	項目	目標
1	心理的安全性の確立	- ハラスメントの無い人間関係 - 患者さんと1人1人としっかり向き合える時間を確保できる
2	レジリエンス・エンジニアリング	- 職業的自尊心の向上による医療安全 - 専門職として自分の未来に期待を感じることができる職場を目指す

212

3 教育研修

	項目	目標
1	研修医の勉強会	・ 麻酔研修の準備 ・ 有病者の周術期管理
2	各学会の指導医、専門医取得に向けて	・ 経験症例の蓄積 ・ 抄読会、地域連携カンファ、学会報告 ・ 学会誌および院内誌への論文投稿
3	各学会の認定歯科衛生士の取得に向けて	・ 学会参加 ・ 学会発表

213

時間の関係で

今回は薬剤関連顎骨壊死に絞って紹介

病態写真、術中写真などを供覧

215

4 医療の質向上 **今年度の3大テーマ**

	項目	目標
1	インプラント治療の効率性向上	・ 口腔内スキャナー導入 ・ ナビゲーションシステム導入（来年） ・ 若手歯科医師、歯科衛生士への技術移転
2	周術期口腔機能管理の対象拡大	・ 口腔ケアの対象拡大 ・ 歯科衛生士の増員
3	薬剤関連顎骨壊死に対する手術	・ 2023年のポジションペーパーに従い治療方針のアップデート

214

薬剤関連顎骨壊死とは



アゴの骨が露出、汚染された状態

216

なぜ起こる？

1. 骨転移の治療薬
2. 血管新生阻害剤
3. 骨粗鬆症の治療薬

など様々な薬剤の副作用として発生する

217

1. 口の中が不潔
2. 虫歯や歯周病が放置

このような場合に生じやすい



219

ただし

適切な口腔管理を行っていれば

かなり防げる！

218

こうならないために
必要なこと



周術期口腔機能管理

1. 感染源となる歯は抜いておく
2. 虫歯や歯周病は「かかりつけ歯科」に治療依頼

220

（ここからは、いつもの幼稚な綺麗事ですが、、）

患者さんを笑顔で帰したい

しかし、そのためには
まず**自分たちが笑顔**になることが必要であろう

そのためには、**心理的安全性**の確保が大切！

221

もうひとつ

今回の目標をスタッフの皆さんと考える過程で

専門職として**自分の未来**に期待を感じることができかどうか

特に若い人には重要なカギとなる

それこそがエンジンとなる
そのような職場を目指したい

223

心理的安全性とは（諸説ありますが、、）

- ハラスメントの無いチームビルド
- 患者さん1人1人としてしっかり向き合える**時間**を確保できる**診療体制**

222

漫然と同じ診療を繰り返さず

新しいテーマへチャレンジし

自分の未来に期待を

224



私ごとで恐縮ですが、
第34回 日本顎変形症学会総会にて
優秀ポスター賞を受賞

口腔癌 診療ガイドライン 2023年版

口腔癌診療ガイドライン改訂合同委員会
日本口腔癌学会
[口腔癌診療ガイドライン] 改訂委員会
日本口腔癌学会
口腔癌診療ガイドライン改訂委員会



金澤出版株式会社



診療ガイドラインの推奨根拠となる
Systematic Review を担当し
論文として報告



新に外傷ガイドラインの
Systematic Review依頼を受諾

自分の未来に期待を持ち
努力するモチベーションとなる仕掛けを
作りたい

決意

診療科ミッション：患者さんを笑顔で帰す

令和6年度 診療科目目標発表

総合内科 General Internal Medicine

229

総合内科

中期目標

5年後の目指す姿

次世代の教育・育成

外来を中心とした研修医研修プログラムへの参画

漢方科・漢方外来の独立運営

231

総合内科



	氏 名	役 職
1	大瀬 綾子	総合内科診療部長兼がん総合診療センター診療部長兼アレルギー疾患研究センター診療部長兼がん・緩和ケア支援センター診療部長
2	西尾 信一郎	総合内科 医師

230

総合内科

令和6年度 目標

1 診療目標

項目	R1	R2	R3	R4	R5	R6目標
1日あたり入院患者数（人）	11.8	10.1	9.6	17.0	11.5	5
新入院患者数（人／月）	29	22	21	29	17	5
外来初診患者数（人／月）	121	104	47	61	29	15
紹介患者数（人／月）	52	46	46	59	43	15
逆紹介患者数（人／月）	53	39	41	43	28	20

人員減少もあり、非常勤医師の援助で外来を中心に構成していく方針です

232

2 医療の質向上 基幹病院の内科としての機能向上

	項目	目標
1	内科専攻医研修の充実	外来・病棟業務のサポート
2	研修医の外来研修の充実	研修医の外来研修の援助
3	誰もが最低限の質で診療を行う	診療に必要な知識・考え方などについての教育していく

研修医や専攻医の研修を充実することで底上げを図ります

233

今後の内科へ求められること

- ・ 内科疾患の種類を問わない対応
- ・ 重症患者への速やかな診療
- ・ 疾患の明確でない患者への対応

235

3 働き方改革 非常勤医師中心となりますが、働けます

	項目	目標
1	平日時間外の削減	平日の時間外業務時間 50時間以内/月
2	休暇をとる	各人が必ず休暇をとる
3	業務内容の整理	各業務の手順・ルールでの所要時間の調整

4 専攻医の確保・教育研修 数年後に必要なことへの投資

	項目	目標
1	初期研修医	外来業務のサポート継続
2	専門医不在領域のカバー	根拠に基づいた診療に取り組む
3	専攻医	専攻医診療のサポート

234

今後の内科で取り組む必要のあること

- ・ 内科疾患患者の診療システムの構築
- ・ 診療に伴う負担の増加を避けていく
- ・ 診療の質の向上

236



決 意

内科への紹介システムの構築！

医療の負担の軽減！



令和6年度 診療科別目標発表

救急科 集中治療科

Emergency
and
Critical Care Medicine

241

救急科・集中治療科

令和6年度

スタッフ紹介

	氏名	役職	資格
1	松島 暁	院長補佐 兼 救急科診療部長 兼 集中治療科診療部長 兼 救命救急センター長 兼 ICU・CCUセンター長 兼 災害対策室長	日本救急医学会救急科専門医 日本集中治療医学会集中治療専門医 日本DMAT隊員 医療安全管理者
2	浅田 馨	救急科部長 兼 集中治療科部長 兼 救命救急センター副センター長 兼 ICU・CCUセンター副センター長	日本救急医学会救急科専門医 日本集中治療医学会集中治療専門医
3	大林 正和	救急科部長 兼 集中治療科部長 兼 救命救急センター副センター長 兼 ICU・CCUセンター副センター長 兼 研修センター副センター長 兼 災害対策室部長	日本救急医学会救急科専門医 日本集中治療医学会集中治療専門医 日本DMAT隊員
4	是永 真甫	救急科医長 兼 集中治療科医長 兼 災害対策室医長	
5	川合 将生	救急科医員 兼 集中治療科医員	

242

救急車等搬送受入患者数

令和5年度

診療実績

6,969

(統合後最多台数)

救急車搬送受入応需率

令和5年度

診療実績

95.8%

(前年度比+1.2%)

診療報酬への取り組み

救命救急入院料
特定集中治療室加算3

令和5年度 診療実績



令和元年度との比較

令和5年度 診療実績



ドクターカー運行状況

令和5年度 診療実績



令和5年 救命救急センター充実段階評価

令和5年度 実績



新専門医制度への対応

令和6年度

実績

救急科専門研修プログラム基幹施設
集中治療科専門研修施設

医師の分布

未来的展望

問題点

都市部への一極集中

2030年問題

未来的展望

問題点

人材不足

救急・集中治療とは

セーフティーネット



救急科・集中治療科

ミッション

中東遠地域の
市民・医療従事者双方の
セーフティーネットとして
機能する

2024年度 診療科目目標発表

企業長兼院長
President & Director

宮地 正彦

257

企業長兼院長

2023年度の取り組みの結果(1)

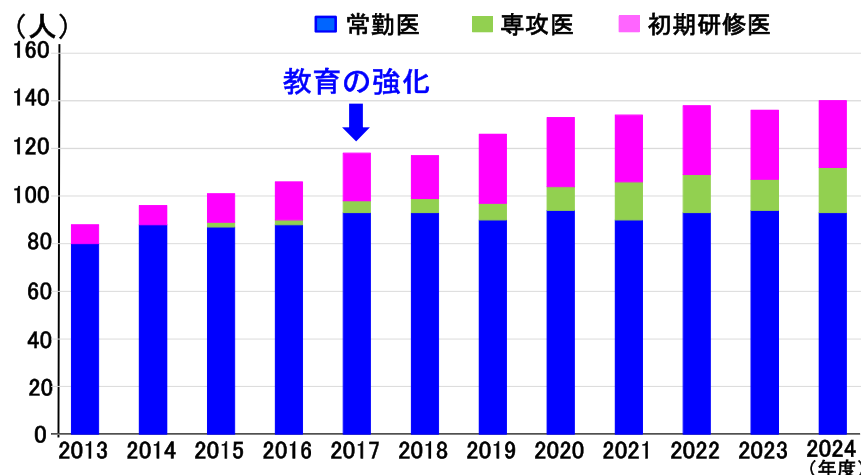
＜医師確保について＞

目 標	評価	内 容
常勤医師数の増員・確保	△ ○ X X ◎	消化器内科医1人増加→増員予定 放射線診断科医2人退職 →浜松医大から増員予定 総合内科医1人退職→総合診療科 血液内科医欠員のまま 専攻医12人増加 (内科5名、整形外科2名、 外科、脳外科、耳鼻科、病理、リハ 科各1名)
心臓外科医の開設		未定(継続交渉中)

258

病院が生き残るためには教育が大事:医師を育て増やす

【常勤医、専攻医、初期研修医数の推移】



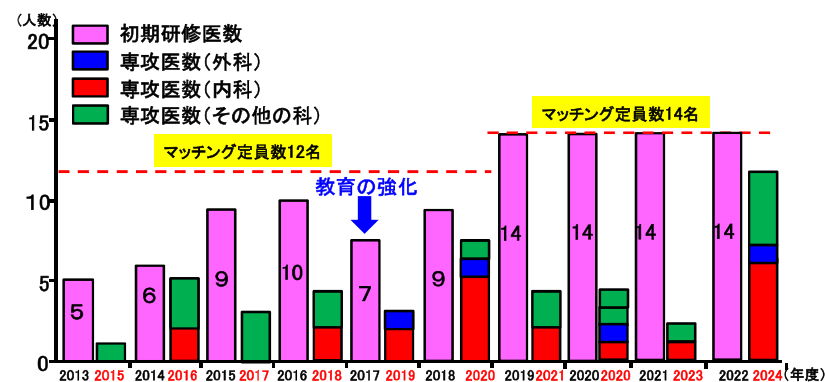
開院時から医師数は46名増加しているが、常勤医数の増加は10名ほどに留まる。初期研修医、専攻医の増加で医師数が増加した。

Chutoen General Medical Center

病院が生き残るためには教育が大事:医師を育て増やす

【初期研修医増加から専攻医増加への道のりは厳しい】

諦めないで専攻医を増やす工夫を:専攻医基幹プログラムの増加
内科のみ ⇒ 内科、皮膚科、救急科、(外科、整形外科、小児科、麻酔科)



専攻医教育体制を強化することで内科専攻医の5人をはじめ、14人中12人が専攻医として当院に残った。

Chutoen General Medical Center

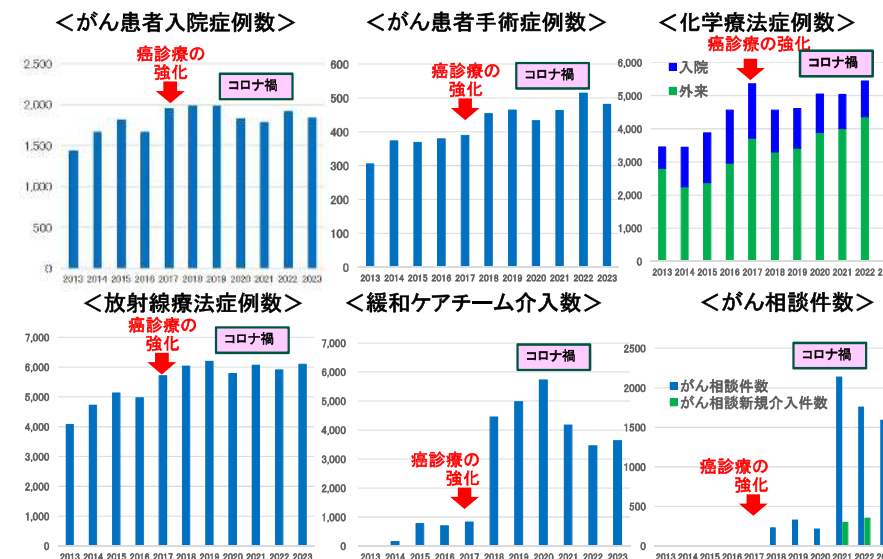
2023年度の取り組みの結果(2)

＜癌診療、救急医療について＞

目 標	評価	内 容
癌診療の充実	◎ ○ ○ ○ ○	がん拠点病院指定獲得 癌関連手術の増加 外来化学療法室稼働増加 放射線治療数の増加 皮膚科悪性黒色腫手術数増加 → ゲノム医療開始予定
救急医療の維持、向上	○ ◎ ○ ○ ○	救急医数の維持:5人 救急救命士2人採用 救急搬送件数の増加:約7000件 ドクターカーの要請件数増加 ECU稼働率アップ:約90%

261

がん治療件数の推移



癌診療を強化することで癌症例の治療件数は増加し、緩和ケア機能が著明に向上した。

2023年度の取り組みの結果(3)

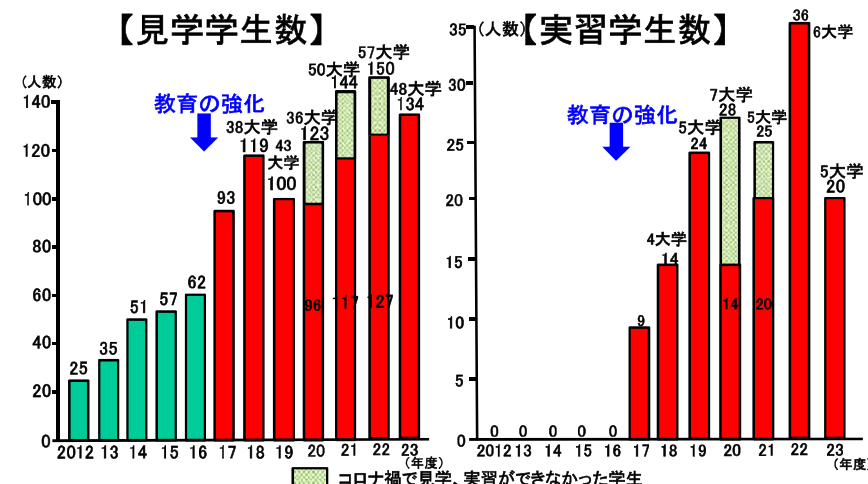
＜教育について＞

目 標	評価	内 容
教育の強化 (5年間継続強化の効果)	△ X	2週間以上の実習学生数の減少(36→20人) マッチング希望者数の減少(48→31人) 見学学生数の増加維持(127→134) →フルマッチできず
大学との連携強化	○	6大学との実習教育の連携 名古屋大学との共同研究増加 浜松医大の放射線診療・教育のサポート 治験管理室の機能強化

263

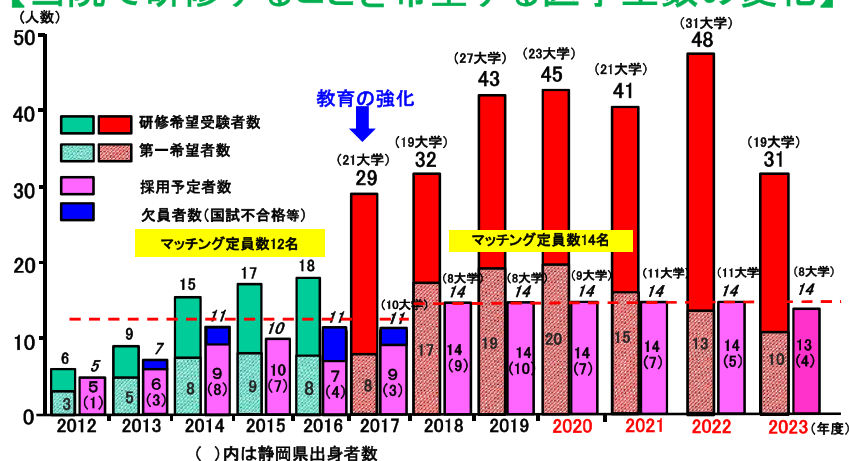
病院が生き残るためには教育が大事:医師を育て増やす

【当院を見学・実習する医学生数の変化】



2017年度から医学生への教育を強化し、交通費、滞在費を支給したことで、見学学生、2週間以上の実習学生が著明に増加した。実習では初期研修医と同様な実体験を多くさせる。

病院が生き残るためには教育が大事:医師を育て増やす 【当院で研修することを希望する医学生数の変化】



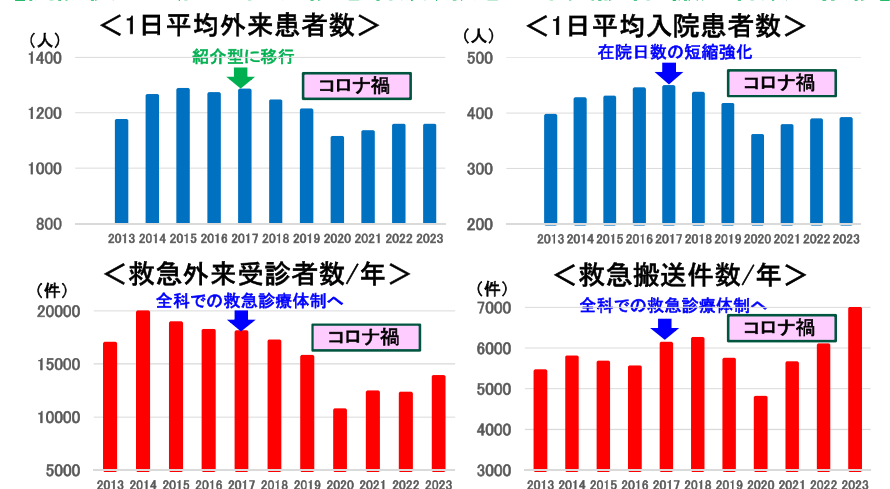
2018年度から5年連続で初期研修医14人枠をフルマッチ！
5年連続、全員医師国家試験合格！
しかし今年度は欠員1人あり。

2023年度の取り組みの結果(4)

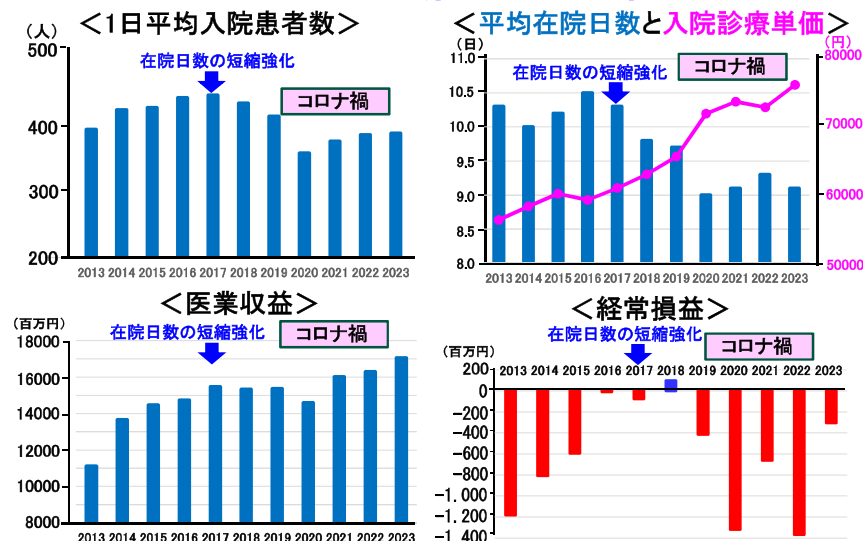
＜経営について＞

目 標	評価	内 容
経営の赤字からの脱却	XXX ↓ X	経常損益で大きな赤字から 軽度回復(-14億円から-3億円)
支出の削減	○ ↓ ◎	コロナ禍後も感染対策継続、光 熱費の増額、人件費増で支出 増。
入院単価の向上 外来単価の向上	◎ ○	73,743円から76,179円にアップ 17,588円から18,026円にアップ
入院稼働率の向上:90%	X→X	75.4%から77.9%にアップ

開院後の医療業績の推移



平均入院患者数、救急搬送件数は開院後増加した。全科での救急診療体制にし、救急搬送件数は増加した。コロナ禍では救急外来は30%以上、救急搬送は20%減少したが、その後は増加に転じた。



コロナ禍では入院患者が減少したが、在院日数を短く維持し、入院患者数を維持できたことで、赤字幅が減少した。

2023年度 運営目標

1 地域医療への貢献

- 1) 新型コロナウイルス類型変更に伴い8東病棟の新たな活用を検討する。緩和ケア病棟の運用開始する。
- 2) がん診療連携拠点病院の指定要件を堅持すると共に更なるがん診療機能の向上を図る。
- 3) 医師充足への一定の進捗を付ける（糖尿病・内分泌内科、血液・腫瘍内科、消化器内科、放射線科、心臓血管外科）
- 4) 1月当たりのECU稼働率を85%以上とする。（84.1%）
- 5) 1日当たりの入院患者を420人以上とする。（387人）
- 6) DPC特定病院群の基準をクリアする。
- 7) 紹介件数を24,000件／年（2,000件／月）以上とする。（24192件）
- 8) 手術件数（手術室内）を6,500件／年（540件／月）以上、全身麻酔件数を2,400件／年以上とする。（6240件、2316件）
- 9) 手術件数（血管造影室内）を1,200件／年（100件／月）以上とする。（1093件）
- 10) 人間ドック件数を15,720件／年（1,310件／月）以上とする。（16212件）
- 11) 経常収支を黒字化する。（3.05億円赤字）

2 誇りと働き甲斐が持てる病院の創造

- 1) ハラスメントを撲滅し働きやすい職場環境をつくる。
- 2) 外来の患者満足度（当院を親しい人にすすめるか？）を4.08以上とする。（4.00）
- 3) 入院の患者満足度（当院を親しい人にすすめるか？）を4.50以上とする。（4.45）
- 4) 職員意識調査における活性型職員を増加させる：意欲度を68.0以上、満足度を68.0以上とする。（67.3、65.9）
- 5) 外来患者の80%以上は診察待ち時間を1時間以内とする。（80.7%）
- 6) 外来患者の75%以上は会計待ち時間を10分以内とする。（59.2%）
- 7) すべての職員の時間外勤務を月60時間以下とする。
- 8) すべての職員が有給休暇（年休、リフレッシュ）を14日以上取得する。

3 日本トップクラスの研修病院を目指す

- 1) 当院で研修する専攻医を7人以上確保する。（12人）
- 2) 優秀な初期研修医のフルマッチを継続する。（13人）
- 3) 研修目標達成の評価点数を全診療科4点以上とする。
- 4) 専門医制度基幹施設となる領域数を4に増やす。（2領域）
- 5) 全職種の資格取得計画を作成し有資格者を増加させる（Sランク1人・Aランク2人）。（1人、1人）
- 6) 特定認定看護師指定研修機関を目指す。
- 7) 病理解剖を上半年6件、下半年6件以上実施する。（計10件）

269

Chutoen General Medical Center

中期目標(2019～2024年)

1. トップクラスの診療・教育にふさわしい全科医師数及び質の向上
2. 3-5年目の研修医を20名以上 ⇒20名
3. 外来患者の9割以上の診察待ち時間を1時間以内
4. 職員の時間外勤務をすべて60時間以内 ⇒6名
5. 院内保育所で5歳児まで預かるように
⇒3歳児まで可能、病児保育開始予定
6. 外科での基幹施設認定 ⇒呼吸器外科、小児外科症例
7. DPCの標準病院から特定病院へのジャンプアップ
8. がん診療拠点病院の指定獲得
9. スポーツ医療関連センターの設置
10. シミュレーションセンターの設置
11. 災害・救急医療のためのスマートインターの設置確定
⇒救急時使用
12. ドック受診者数を100人/日へ増加 ⇒73名
13. 累積欠損金12億円から余剰金プラスへ ⇒コロナ補助金でプラス

Chutoen General Medical Center

今後の当院における計画案

1. 院内のDX化 ⇒2024年6月から加速
2. 新棟の開設(2026年5月)
⇒最新放射線治療器導入(1階)
リハビリ科の拡充(2階、3階)
先進な人間ドック健診(3階、4階)
3. 救急救命センターの拡充(2027年ごろ)
⇒救急医療圏拡大への備え(人口減にも考慮必要)
4. ポケットカルテ、マイナンバーカード利用の医療
5. 圏域5病院のデータ、電子カルテ情報共有化
6. 自由診療の拡充(ドック診療の拡充)
⇒予防医療の強化(胃癌撲滅、がん早期発見、
認知症早期発見、成人病の予防など)
⇒行政とともに検診率を50%までにアップを

Chutoen General Medical Center

企業長兼院長

決意

- ・ファーストペンギンになることを恐れず、改革、改善を推し進めていく。
- ・地域社会、地域医療の変化を鋭敏に感じ、先んじて柔軟に対応する組織づくりに躊躇しない。
- ・日本トップクラスの教育、臨床医療、臨床研究のできる病院をつくる。

272

